

## 第3章 モデル事業

## ・モデル事業の目的と実施体制

推進委員会委員  
浅井 経子

### (1) モデル事業の目的

今年度のモデル事業は、高等教育情報化推進協議会が文部科学省から委嘱を受けた「教育情報衛星通信ネットワーク高度化推進事業」のうち、教育方法やV S A T局の活用等に関する調査研究を行ったものである。

平成11年度はエル・ネット「オープンカレッジ」の実施可能性を探ったが、利用については全国の受信施設を備えた社会教育施設等への広報が中心で、利用方法は施設側に委ねたのみであった。そのため、多くは受講者募集のみでまだあまり効果をあげる工夫もなされなかったが、中にはうまくこれを活用して効果をあげた県・市もあった。

平成12年度は利用体制についての実験的研究を行い、「連携型」「メニュー選択型」「新規開発型」の3つのタイプを設定して、エル・ネット「オープンカレッジ」活用の効果的な方法を探った。併せて、双方向性の確保に関するさまざまな実験的研究も行った。

平成13年度は利用体制、双方向性の確保およびV S A T局からの発信等についての実験的研究を行った。V S A T局の活用は地域からの発信を可能にするために必要であり、その際には生涯学習関係部課や社会教育関係センター（モデル事業実施主体）と教育センター（V S A T局）との協力体制が不可欠で、その可能性と課題を探る必要があった。

### (2) 実施体制

本モデル事業実施のために、高等教育情報化推進協議会推進委員会のもとにモデル事業実施委員会を設置し、モデル事業実施地区として下記の7地区に委嘱した。各モデル事業実施地区はエル・ネット受信施設を中心として施設関係者及び地域協力者、受講者の代表等からなる協議会を設置し、各地区協議会は事業の企画立案、実施、評価に当たった。

#### < モデル事業実施地区と各地区協議会 >

北海道網走市：網走市エル・ネット「オープンカレッジ」実施委員会

青森県：エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

石川県：いしかわエル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

岐阜県：教育情報衛星通信ネットワーク高度化推進事業モデル事業実施委員会

岡山県：岡山県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

鳥取県：鳥取県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実行委員会

島根県：島根市町村コミュニティ・カレッジ協議会

モデル事業実施委員会は具体的な実施計画の検討を行い、昨年度に続き「連携型」「メニュー選択型」「新規開発型」の3つのタイプを設定し、さらに本年度のモデル事業では「連携型」を「受講者企画参加型」「施設企画型」「大学企画型」にわけることにした。各地区協議会はそのいずれかで事業を実施した。

モデル事業実施委員会と各地区協議会は事業実施前に協議を行い、意志の疎通を図った。また、モデル事業の実施にあたっては、モデル事業実施委員会委員は現地視察調査も行った。

さらに事業終了後には、各地区協議会の報告会を開催し、モデル事業実施委員会と意見交換を行うなどして、研究の推進を図った。

なお、V S A T局の活用を行ったモデル事業は次の通りである。

・青森県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

弘前大学講座（3コマ）、八戸大学講座（4コマ）を青森県総合社会教育センターが収録して、同センターがV S A T局（総合学校教育センター）より放送。

・いしかわエル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

ライブでの講義と双方向質疑を石川県社会教育センターが収録して、V S A T局（県教育センター）より石川県特別番組として放送。

・岡山県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

岡山大学が独自収録した講座（4コマ）をV S A T局（岡山県教育センター）より放送。そのうち1コマはV S A T局間（同センターと鳥取県教育研修センター）の双方向質疑を実施。

・鳥取県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実行委員会

岡山大学講座（1コマ）をV S A T局（鳥取県教育研修センター）で受けて、岡山県のV S A T局（岡山県教育センター）と双方向質疑を実施。

## ・公開講座のタイプ

今回の実験的研究では、「連携型」「メニュー選択型」「新規開発型」の3つのタイプを設定し、さらに「連携型」を「学習者企画参加型」「教委・施設企画型」「大学企画型」のタイプに分けて事業を行った。それぞれのタイプの内容は次のようになっている。

### (1) 連携型

特定の大学と連携をとり公開講座を開設し、エル・ネット「オープンカレッジ」を利用する。

- ・学習者企画参加型：講座の企画・運営等に受講者の代表やボランティア等が参加して実施する。
- ・教委・施設企画型：教育委員会や社会教育施設が中心となって、「オープンカレッジ」を活用した講座を企画・運営する。
- ・大学企画型：大学が中心となって、講座を企画する。

### (2) メニュー選択型

従来から公民館等で施設独自の講座を開設していたが、効果向上のためエル・ネット「オープンカレッジ」が提供する講座を加えて実施する。あるいは、エル・ネット「オープンカレッジ」の複数の公開講座をメニューとしてとらえ、その中から学習者が自分のあった講座を選択して学習メニューをつくり、受講する。

### (3) 新規開発型

エル・ネット「オープンカレッジ」を利用して、新しい学習支援の方法を開発する。これらのタイプに基づいて行われた各地区の実施状況は、表1のようになっている。

表 1 平成13年度モデル事業の公開講座のタイプと実施状況

<p>&lt;新規開発型&gt; エル・ネット「オープンカレッジ」を利用して、新しい学習支援方法を開発する</p>	<p>岐阜県教育情報衛星通信ネットワーク高度化推進事業モデル事業実施委員会 島根市町村コミュニティカレッジ協議会</p>	<p>中央学院大学講座を岐阜県図書館が行ったIT講習会と組み合わせて実施した。さらに岐阜大学講座も取り上げて実施した。また、両講座の関連文献の紹介を行うと共に講座のビデオを図書館資料として閲覧受講できるようにした。さらに、受講者の質問をメールや電子掲示板で講師に送付した。</p>
<p>&lt;メニュー選択型&gt; 従来の施設独自の講座に公開講座を加える。または複数の公開講座から学習者が選択して学習メニューをつくり、受講する。</p>	<p>鳥取県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会</p>	<p>島根大学の3講座を必修講座とし、さらに学習者が全国28大学66講座から10講座を選択して学習メニューをつくる。「学習メニュー方式」を採用して実施した。さらに、インターネットTV会議システム等を使った質疑応答、受講料徴収方法や簡易印刷機を使ったテキスト配布方法の実験・調査も併せて実施した。</p>
<p>&lt;大学企画型&gt; 大学が中心となって、講座を企画する</p>	<p>岡山県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会</p>	<p>岡山県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会と連携して、岡山大学講座を鳥取県教育センター（VSA T局）で受講し、VSA T局間の双方向質疑を行った。その際、さらに県内3施設からもFAXで質問を受け、教育センターから衛星通信で講師に質問した。同講座は「鳥取県民カレッジ」の連携講座として位置づけられた。</p>
<p>特定の大学と連携をとり公開講座を開設する ^ 連 携 型 v</p>	<p>岡山県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会</p>	<p>岡山大学講座を岡山県教育センター（VSA T局）からライブ放送し、1コマを岡山県生涯学習センター及び24のサブ会場とTV会議システムやFAXで結んだ双方向の講座として実施した。同時に、鳥取県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会と連携して、鳥取県教育研修センター（VSA T局）とも衛星通信を使って質疑応答を行った。</p>
<p>&lt;教委・施設企画型&gt; 教育委員会や社会教育施設が中心となって、「オープンカレッジ」を活用した講座を企画する</p>	<p>いしかわエル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会</p>	<p>中部大学講座を石川県民大大学院の自主講座として位置づけて実施した。中部大学講座受講後、講師を石川県社会教育センターに招いて、2つのサブ会場とTV会議システムを使った双方向講座を行い、その様子を収録して、石川県教育センター（VSA T局）から石川県特別番組として放送した。</p>
<p>&lt;学習者企画参加型&gt; 講座の企画・運営等に受講者の代表やボランティア等が参加して実施する</p>	<p>青森県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会 網走市エル・ネット「オープンカレッジ」実施委員会</p>	<p>弘前大学、八戸大学、淑徳短期大学、琉球大学等の講座を「あおもり県民カレッジ」の講座に位置づけて実施した。弘前大学、八戸大学の講座を青森県総合社会教育センターが収録・編集し、青森県総合社会教育センター（VSA T局）から放送した。淑徳短期大学講座は6会場でTV会議システムとFAXを使った双方向講座とし、地元講師による独自講義も加えて実施した。 オホーツク・文化交流センターが支援する市民団体「あはしりまなび塾」が実施委員会を組織して企画・運営した。札幌学院大学講座を受講し、受講後にTV会議システムによる質疑応答を行ったり、講師を招いて対面による講座を実施したりした。</p>

## 事例

### 1. エル・ネットを活用した地方における新しい学習形態の模索 市民の立場から

網走市エル・ネット「オープンカレッジ」実施委員会  
(オホーツク・文化交流センター)

#### 1. 事業の趣旨

平成12年11月23日にオープンしたオホーツク・文化交流センターは、市民待望の新施設であり、今後のソフト面における活動が注目されている。網走市では、市長が学長となり、市民の生涯学習活動をサポートする観点から、平成13年6月より市全体を「学習の場」と捉える『あばしりまなび塾』をスタートさせた。今回は、市民で構成される『あばしりまなび塾』推進運営協議会が母体となってエルネット・オープンカレッジのモデル事業実施委員会を組織し、『あばしりまなび塾』及び『エルネット・オープンカレッジ』の市民へのPR効果も期待して実施した。

今回のモデル事業に係る研究調査項目としては、

遠隔地域におけるエルネットを利用した学習機会の効果

公開講座収録時（夜間）とエルネット放送時（日中）による時間帯選択方式の効果

市民実施委員会による新学習形態の事業運営の可能性

以上の3点をメインに報告する。

#### 2. 事業の内容

##### (1) 概要について

史跡「モヨロ貝塚」を擁する網走市は市立郷土博物館友の会などの組織があり、考古学に興味を持った市民が多く、今回のモデル事業の講座には連携型として札幌学院大学『北の文化 - 考古学』を選択した。また、講師の鶴丸俊明同大学助教授は網走出身であり、新しい学習形態を市民に紹介・提供するにあたっては、周知の面で効果が大きいと判断した。

講座収録日に、テレビ会議システムを用いた双方向講義を受講する。時間帯の位置づけとしては、夜間の講座とする。（実施日：第1講義9/18、第2講義9/25）

上記の2講座をエル・ネット「オープンカレッジ」放送日に受講する。時間帯は放送プログラムに合わせて、午前の講座とする。（実施日：第1講義10/4、第2講義10/18）

エルネット放送後に、講師の鶴丸俊明助教授を網走に迎えて第3講義として、考古学全般の中から講義テーマを設定してもらい、現地講義を実施する。

## (2) 周知・広報について

市内全戸配布の社会教育だより「季節の風」8月号に受講者募集記事を掲載した。さらにチラシ1,000枚、ポスター50枚を印刷、市内各施設に配布し、市立郷土博物館「友の会」のメンバー約300名、市内の東京農業大学市民講座受講生約50名、網走市民大学受講生約70名にDMを郵送、市内各報道機関に周知し参加者を募集した。なお、社会教育だより「季節の風」10月号にて、エル・ネット「オープンカレッジ」放送日を再度周知した。

## 3. 事業の実施経過

札幌学院大学とのテレビ会議システムを結んだ双方向講義は、『あばしりまなび塾』推進運営協議会のメンバーが事前の接続テストや、講義当日の受付などの準備、市民への口コミによる講座のPRなど様々な面で主体的に運営しながら実施された。また、メンバーは実際に講義を視聴し、参加者の反応を探った。

講座開始までに30名の受講申し込みがあった。初回の収録日講義は、出席率が高かったが、2回目以降は低下している。出席状況は以下のとおり。

講義日 内 訳	第1回講義 (9/18)	第2回講義 (9/25)	エルネット放送日 (10/4)	エルネット放送日 (10/18)	第3回現地講義 (10/18)
受講者数	26名	17名	0名	1名	16名
実施委員会	5名	3名	0名	0名	4名

参加については、夜間に偏ることも想定されたため、収録日の講義(夜間)とエル・ネット放送日(午前)との参加差異を把握するために、当初計画した夜間のビデオ放送は中止した。

広報の段階で、双方向講義とエル・ネットの放送という2段階の講座であることは十分PRを行ったはずであるが、30名の受講申込者は、第1回・第2回講義への出席を念頭に申し込みを行っているため、エル・ネット放送日に再度講義を視聴することや、欠席分を受講するという状況には残念ながら至らなかった。

第3回現地講義は、事前に受講申込者にDMで案内を行ったが、予想したよりも参加が少ない結果となった。テーマは鶴丸先生が現地調査に臨んだ日蒙共同学術調査「『ゴルバングル計画』-チンギス・ハーンの陵墓を探す-」という内容で、スライド写真などの解説も交え、国内の考古学のみにとどまらない壮大なプロジェクトについての講義であった。

## 4. 市民実施委員会としての意見

今回、網走市では市民が中心となって実施委員会を構成してモデル事業を実施した。この観点から、実施委員よりのエル・ネット「オープンカレッジ」に対する疑問・課題・提案などを記述する。

#### 遠隔地域におけるエル・ネットを利用した学習機会の効果

- ・効果があることはあえて否定しないが、「学問に王道なし」という故事があるように、自らが遠隔地に行き、学ぶ姿勢が大切であると感じた。
- ・双方向や生放送ではないという前提からすると、“迫力感”“臨場感”に欠けるが、講義を受講した後のフォローアップで効果を高めることができるのではないかと。そのためには同一テーマ講義の継続性やコーディネーターによる講義内容の討議などの工夫が必要。
- ・大学講義のみならず、芸術的な分野にも範囲を広げることを期待する。例えば地方では絶対に見られない歌舞伎、能、狂言など。著作権の問題もあるのですが、国のシステムを活用することで芸術的な面での評価が世界的に遅れている日本の活性化に役立てることに期待。
- ・単発の講義ももちろんよいが、例えば一人の先生に一つのテーマで数回の講義をしてもらうことで繋がりを持たせ、最初と最後にフェニックスを利用することが可能であれば中間の数回の講義はエル・ネットだけでもより魅力のあるものになるはずである。今はビデオでもテレビでも大学の講座などは結構やっている時代なので、やはりリアルタイムの部分を導入しなければ魅力のあるものにならないと思う。
- ・現地講義では講師の姿が見え、スライドを利用しての学習でしたので、理解しやすかったと思う。講義の内容によるが、通常のエール・ネット放送でも映像面での工夫をもっと取り入れるとよいと思う。
- ・地理的に離れたところの大学の講座を今まで勉強する機会に恵まれなかった人が、今住んでいるところで受けることができるので、大変嬉しいことである。さらに、一つの関連性のある講座を受けて単位取得もできることになれば、何らかの事情で大学に行けなかった人が大学卒業と同等の資格を取得することも可能になるので、その効果が存分に活かされてくると思う。
- ・CS、ブロードバンドと言った新しい形の通信媒体の登場により、市民に学習の選択の幅が広がってきた。自分の学習レベルや、興味に合わせた自分なりの放送を受講でき、また時間選択方式の導入により、都合の良い時間に学習できるメリットが考えられる。しかし、高齢者や障害者などの外出の機会の少ない人のために、放送を録画して自宅での学習に用いてもらうなどの方式と合わせての活用が必要だと考えられる。

#### 公開講座収録時（夜間）とエル・ネット放送時（日中）による時間帯選択方式の効果

- ・集中力を持続するためには、休憩をこまめに取ることが大事。エル・ネット放送はビデオ鑑賞と考えると、15分が限界では。
- ・各講座の収録日時が事前にわかっているならば、テレビ会議システムを利用して講義にリアルタイムで直接参加できるようになるのでは。
- ・学習意欲の高い人でも、仕事をしている人は日中の受講は無理だとすると、やはり夜間の時間帯の方が出席しやすいと思う。
- ・夜間の双方向方式の講義は有効であると思うが、参加者の年齢が限られるという難点がある。講座の内容によって夜間、昼間のフェニックス利用方式がよいと思う。従っ



てエル・ネットに関しては、提供側が一方的に時間帯を設定するのではなく完全にレンタルのみとして個人にビデオを貸し出すとか、グループでの研究会に使用する場合に会場を提供するなどの方が利用効果が高いのではないか。

- ・今回は夜間講座の情報が大きく取り上げられていたことが影響したのではないか。日中の講座については情報が行き渡らなかったことも推測できるが、講座の内容によると思う。もう一つの側面は、受講者のどの層をターゲットにするかで内容が変わってくると思う。
- ・会場での臨場感や、参加意識を考えると双方向通信システムが望ましいと考えられるが、放送内容もただの大学の講義を録画、放送するだけではなく演出が在っても良いと思う。映像技術の進歩により、放送ならではの魅力づくりができるはずである。

#### 市民実施委員会による新学習形態の事業運営の可能性

- ・網走においては「まなび塾推進運営協議会」があるように、導入に当たっては各自治体も生涯学習の推進を検討しているので、「まちづくり団体」などと連携すれば市民実施も可能であると思う。
- ・事業ということになると、受講者のニーズを的確に判断して運営に当たる必要がある。そうでなければ尻すぼみ状態に陥り、なかなか広げていくことが難しくなってしまう。網走においては、たとえば「まなび塾」手帳を持っている方などを中心に市民の声を拾って、希望する講座が受講できるようになり口コミで広がると最高の形である。
- ・市民の手で運営の研究では、実施委員会が実際に受講者となることで、リアルタイムで市民の声が運営に反映され、現状に即した対応ができるような方法を考えたが、一過性の視聴ではなく、地域の学習機関との連携により幅広い活動に発展できるようなシステムの構築を手がけたい。

#### その他

- ・放送媒体を使って今回大学の講座を聴いているが、これらの活用が進んでいくと現在の大学などの学校教育から家庭・公共施設での学習にシフトすることになる。従来の学校教育の理念が問われることになるのでは。
- ・現在、インターネットやデジタル放送、衛星放送（スカパー等）などメディアの多様化・高速化時代となっているが、今回のエル・ネットが官（文部科学省）の事業として必要なのだろうか。民間のカルチャーや大学独自の事業に競合してしまうのでは。
- ・各大学のさまざまな講義が集まってエル・ネット「オープンカレッジ」となっているが、個々の講義がばらばらに存在している。受講者には簡単に受講選択できるコースのようなものを何講義かまとめて提示してもらった方が受講しやすいのではないか。
- ・受講する側としては、一度でも出席してみると気軽に受講できることがわかるので、オープン・カレッジは浸透して行くと思う。やはり1回ではなく2～3回で終了する講義（セット）になっている方が、飽きずに受講できると思う。
- ・今後は、市民にわかりやすい方法での放送内容の提示や、地域の問題に置き換えて取り組める講座、学習単位として認定できる制度など、生涯学習の学習機会の一つとし

て定着させていきたい。

## 5. 事業の成果と今後の課題（まとめとして）

### 遠隔地域におけるエル・ネットを利用した学習機会の効果

今回のモデル事業の成果として遠隔地においても全国さまざまな大学の講義を聴講可能となることは、間違いなく新たな学習機会が広がったと言える。現行システムの位置づけについて遠隔地よりのニーズはどのようなものであるのか、という点を中心に考察すると将来のエル・ネット「オープンカレッジ」の姿が見えてくる。エル・ネットを視聴して『地方で大学の講座を受講する』ということは、何を意味するのであろうか。それは、将来において「オープンカレッジ」が一般の大学と同様に地方において機能することに他ならない。単発的な大学講座がバラバラに集合した形態をより体系的に取りまとめ、それらの講座を受講することによって、自宅から（受信施設へ）通える大学、自宅でビデオ学習できる大学を目指して本格的な単位取得システム構築をして欲しい。

### 公開講座収録時（夜間）とエル・ネット放送時（日中）による時間帯選択方式の効果

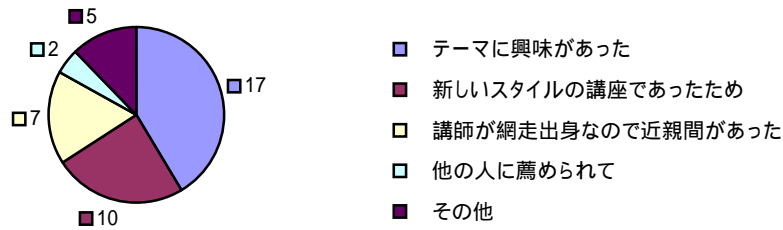
現行のエル・ネットの放送時間帯はもっぱら日中となっているため、網走市においては受講者がゼロに等しい結果となった。ここで、現行システムの工夫の問題となるが、日中受講の需要が皆無であるかと言えば必ずしもそうとは言えない。提供する講座の内容により、日中受講者の需要も喚起することが可能となり、エル・ネットのより広い利用につなげることができる。

### 市民実施委員会による新学習形態の事業運営の可能性

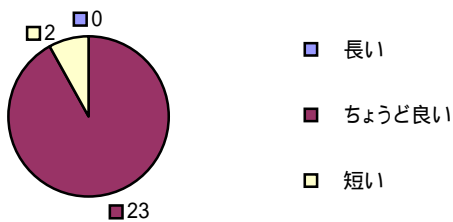
今後のエル・ネット「オープンカレッジ」の具体的な活用については、受講者＝講座企画者となることができ、その両面から市民の声として、より良い講座を作り上げるための意見・提案・要望などを反映できる市民実施委員会による運営が期待される。そのためにはオープン・カレッジ年間計画の早期策定と情報の早期開示が必要不可欠である。情報の早期開示によって講座計画の立案が容易になり、市民委員による講座実施がより現実的なものとなる。『あばしりまなび塾』では、次年度（平成14年度）よりエル・ネット「オープンカレッジ」の講義の中からいくつかを選択し、「あばしりエル・ネット講座（仮称）」として市民への新たな学習機会の提供を目指し、事業展開の提言を行った。

## 受講者アンケート（受講者30名中25名回答）

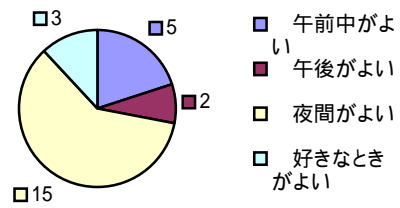
Q 1 何故この講座を受講しようと思いましたか。（複数回答可）



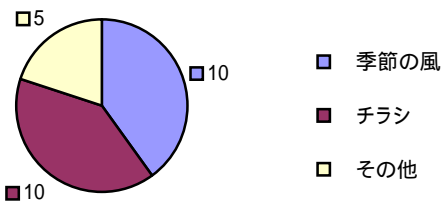
Q 2 講座の時間について



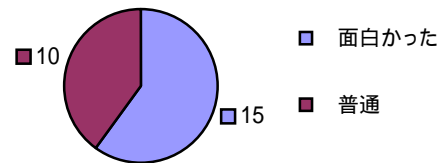
Q 3 講座の時間帯について



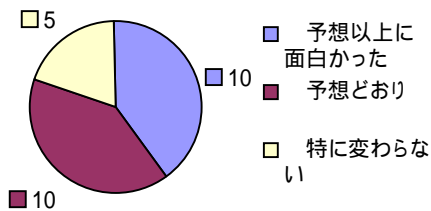
Q 4 今回の講座はどのようにしてお知りになりましたか。



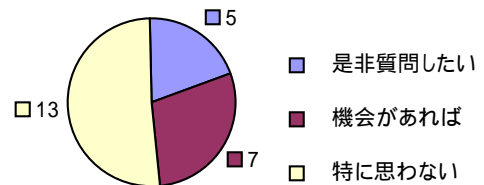
Q 5 今回の講座の内容は？



Q 6 講座を受ける前と実際に受けた後の印象は？



Q 7 講座が終了してから、講義の内容について質問したいと思いましたか。

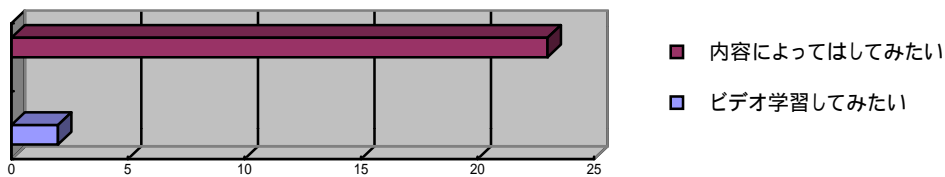


Q 8 Q 7で、 を回答された方へ（15名 / 25名）

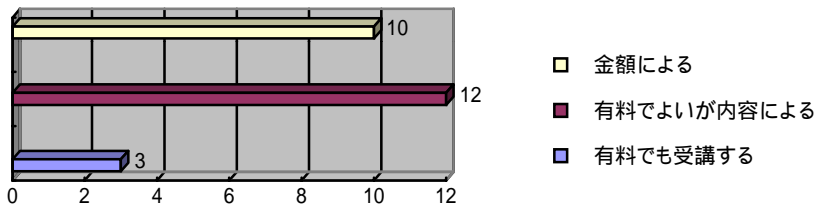
現在エルネットオープンカレッジでは、インターネットのホームページ上で講義テキストの配信を行い、講義に関する質問を電子メールで受付しています。



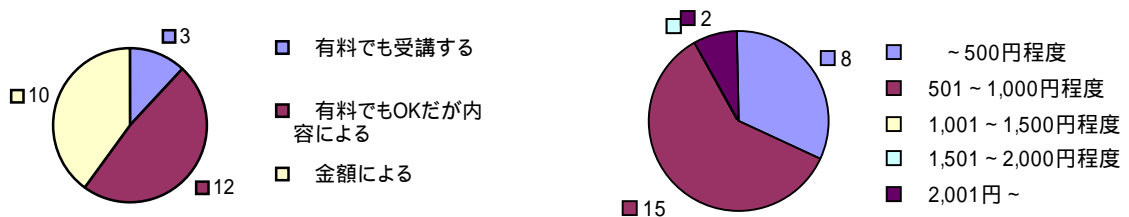
Q 9 オープンカレッジの他の大学公開講座を録画したビデオを借りて、自宅で好きな時間にビデオを見ながら学習できるとします。



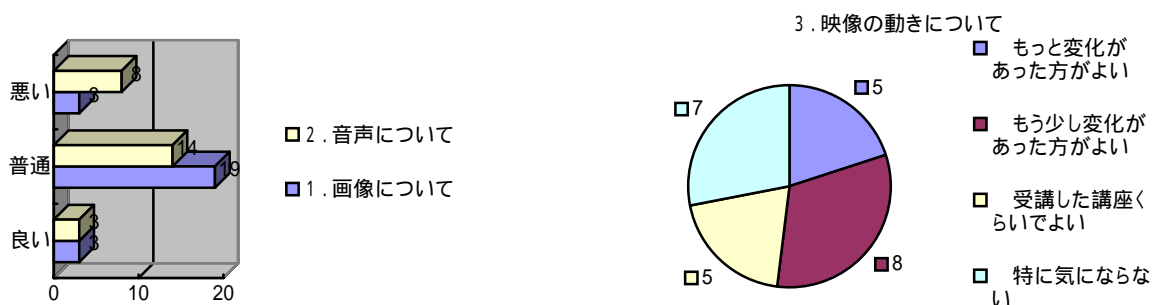
Q10 現在、エルネットオープンカレッジは無料で配信され受講できます。将来、講座受講が有料となった場合、受講されますか？



Q11 有料の場合、どの程度の金額が適当であると思いますか？



Q12 通信システムについて



Q15 あなたの年齢・性別・職業をお聞かせください

年齢層	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	記入なし
人数	2名	3名	0名	3名	10名	5名	2名

性別	男性	女性	記入なし
人数	13名	7名	5名

職業	無職	主婦	公務員	サービス業	会社員	記入なし
人数	10名	3名	3名	3名	3名	3名

(北海道網走市教育委員会教育部社会教育課事業企画係主事 細川英司)

## 2. エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した『あおもり学講座』 ～魅力的な講座を目指して～

エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会  
(青森県総合社会教育センター)

### 1. エル・ネット「オープンカレッジ」を受信する地域としての課題

淑徳短期大学と連携しながら、平成11年度、12年度の2年間エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業を実施した結果、双方向性を確保することが効果的であることは実証済みである。

しかし、エル・ネット「オープンカレッジ」は、講座を発信する大学、それを受信し講座運営を行う地域の両者に、まだ解決しなければならないさまざまな課題があり、それらを改善していくことが、視聴者の視点に立ったエル・ネット「オープンカレッジ」の実用化につながると考えられる。

そこで、青森県では、あおもり県民カレッジ直営の「あおもり学講座」にエル・ネット「オープンカレッジ」を活用し、より高度な学習機会を住民に提供するための講座運営の在り方を探ることとした。

### 2. エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した『あおもり学講座』の構築

エル・ネット「オープンカレッジ」を活用することにより、あおもり学講座は

より広い視点から地域を見つめる内容  
学習機会が不足している市部以外の周辺地域への学習機会の拡充  
エル・ネット「オープンカレッジ」を利用した講座運営の市町村へのモデル

とすることが期待される。

#### (1) テレビ会議システムを利用した双方向講座

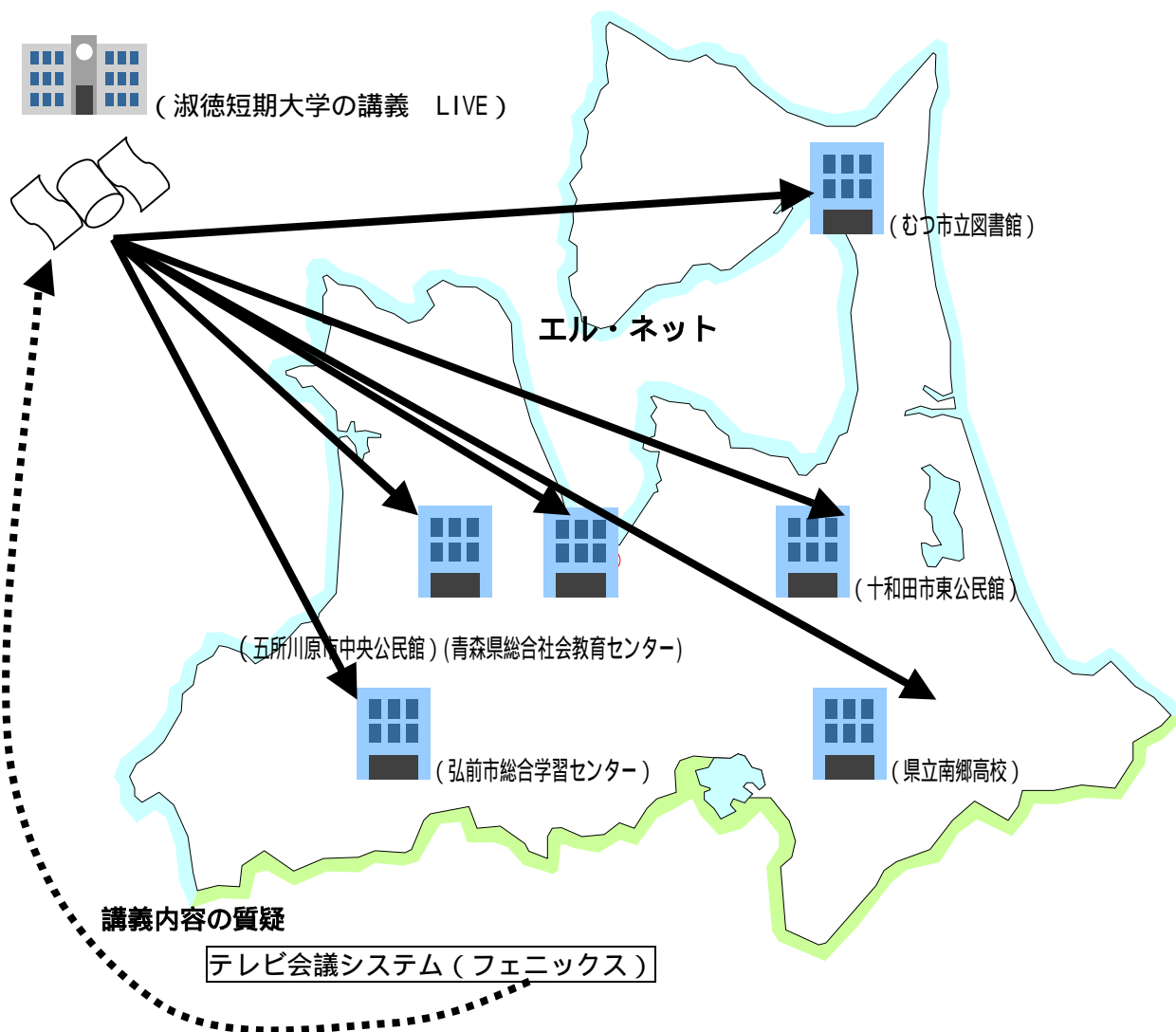
- ・メイン会場と淑徳短期大学とをテレビ会議システムで結び、質疑応答を行う。
- ・メイン会場を固定せず、講義ごとに変えていく。
- ・1講義あたり、メイン会場を2箇所ずつ設定する。

会 場	講 座 運 営	11 / 27	11 / 29	12 / 1	12 / 4
青森県総合社会教育センター	東青教育事務所				
五所川原市中央公民館	西北教育事務所				
弘前市総合学習センター	中南教育事務所				
十和田市東公民館	上北教育事務所				
むつ市立図書館	下北教育事務所				
青森県立南郷高等学校	三八教育事務所				

メイン会場 (テレビ会議システムを利用し、淑徳短期大学と質疑応答をする。)

サブ会場 (質問をFAXで、メイン会場へ送る。) どの会場も、エル・ネット受信設備あり

あおもり学講座イメージ図（淑徳短期大学との連携による講座）



[メイン会場]		
第1 講義（11月27日）	---	青森県総合社会教育センター 十和田市東公民館（他はサブ会場）
第2 講義（11月29日）	---	弘前市総合学習センター 五所川原市中央公民館（他はサブ会場）
第3 講義（12月1日）	---	青森県立南郷高等学校 十和田市東公民館（他はサブ会場）
第4 講義（12月4日）	---	むつ市立図書館 青森県総合社会教育センター（他はサブ会場）

（2）エル・ネット「オープンカレッジ」の視聴と独自の講義を組み合わせたあおもり学講座の開設

- ・エル・ネット「オープンカレッジ」の視聴+独自講義で行う。
- ・独自講義1コマは、受講者が主体的に関われるものにする。例えば、討議、パネルディスカッション、ワークショップ等、（できるだけ講義形式ではなく）
- ・独自講義には地域の実践者等を講師として招く。
- ・独自講義1コマの時間は、2時間程度とする。

### 3. 実用化を目指した具体的な取り組み

#### (1) 双方向講座の実施について

テレビ会議システムを利用してスムーズな質疑応答が行われるためには、機器の操作はもちろんであるが、メイン会場、サブ会場の運営スタッフの役割を明確にしておくことが重要である。

講義の流れ（120分の講義）

淑徳短期大学から、1つの講義で4回質疑が行われることが示された。

講義20分 1回目の質疑10分 講義20分 2回目の質疑10分 講義20分 3回目の質疑10分 講義10分 4回目の質疑15分 講義・まとめ5分

質疑の際の役割分担

《メイン会場》

【社教センター職員】テレビ会議システムの操作、サブ会場からの質問取りまとめ

【教育事務所職員】 講座の運営全般、質疑の際の司会、質疑の際のカメラ撮影

《サブ会場》

【教育事務所職員】 講座の運営全般、会場の質問の取りまとめ等

メイン会場、サブ会場からの質問

- ・メイン会場からの質問は、1回目、2回目とし、サブ会場からの質問は3回目、4回目の質問タイムに行う。
- ・サブ会場の 教育事務所担当者 が受講者へ質問用紙を配付する。（受付時）
- ・3回目に質問するサブ会場では、2回目の質疑が終了後、質問用紙を回収する。
- ・4回目に質問するサブ会場では、3回目の質疑が終了後、質問用紙を回収する。
- ・サブ会場の 教育事務所担当者 は、会場のFAXを利用して、メイン会場へ送付する。

質疑の順番

	1回目の質問	2回目の質問	3回目の質問	4回目の質問
11 / 27	メイン会場 ・青森会場	メイン会場 ・十和田会場	メイン会場 ・青森会場 サブ会場 FAX利用 ・五所川原会場	メイン会場 ・十和田会場 サブ会場 FAX利用 ・むつ会場
11 / 29	メイン会場 ・弘前会場	メイン会場 ・五所川原会場	メイン会場 ・弘前会場 サブ会場 FAX利用 ・青森会場 ・十和田会場	メイン会場 ・五所川原会場 サブ会場 FAX利用 ・むつ会場 ・南郷会場
12 / 1	メイン会場 ・十和田会場	メイン会場 ・南郷会場	メイン会場 ・十和田会場 サブ会場 FAX利用 ・青森会場 ・五所川原会場	メイン会場 ・南郷会場 サブ会場 FAX利用 ・弘前会場
12 / 4	メイン会場 ・青森会場	メイン会場 ・むつ会場	メイン会場 ・青森会場 サブ会場 FAX利用 ・五所川原会場 ・弘前会場	メイン会場 ・むつ会場 サブ会場 FAX利用 ・十和田会場 ・南郷会場



(2) 独自講義を組み合わせたエル・ネット「オープンカレッジ」について

エル・ネット「オープンカレッジ」の視聴と独自講義との組み合わせ

[青森会場]

エル・ネット視聴4コマ

+ 独自講義1コマ ワークショップ

テーマ「これからの食生活を考える」 講師：青森保健所職員

[五所川原会場]

エル・ネット視聴4コマ

+ 独自講義2コマ 講義と話し合い

テーマ「高齢期の食生活と栄養」 講師：管理栄養士

「手話を通して共に歩む」 講師：五所川原手話サークル会員

[中南会場]

エル・ネット視聴3コマ

+ 独自講義1コマ 講義と話し合い

テーマ「福祉はまちづくり」 講師：黒石市社会福祉協議会常務理事

[十和田会場]

エル・ネット視聴4コマ

+ 独自講義1コマ 調理、試食、座談会

テーマ「上北地方にみられた昔の食事と現代の食事」

講師：元十和田地域農業改良普及センター課長

[下北会場]

エル・ネット視聴4コマ

+ 独自講義1コマ 講義と話し合い

テーマ「下北の福祉の現状と現代的課題」 講師：特別養護老人ホーム園長

[三八会場]

エル・ネット視聴4コマ

+ 独自講義1コマ 講義と話し合い

テーマ「介護問題の中の食習慣」 講師：南郷メディエルデプラザ総婦長

地域学としての「あおもり学講座」

「青森を知り、自分を見つめ、私たちの未来を考える」講座として位置付け、現代的な課題としての観点でエル・ネット「オープンカレッジ」を視聴し、その後地域の実践者の具体的な話を聞く。このような講座の組み立てをすることにより、自分たちの生活の場である青森についてより深く学んでいくことができる。

また、地域の実践者については、例えば健康・福祉の内容では、地域の栄養士や介護の仕事の関係者、保健所職員、ボランティアの内容では、地域の手話サークル関係者などを講師として招くことにより、より身近な内容の講座とすることができる。

## 4. 事業の成果

### (1) 双方向講座の実施について

#### 質疑応答

昨年は、青森会場のみメイン会場として、東京のスタジオとテレビ会議システムで結び、直接質問を行った。今回は、1講義あたり4回の質問タイムが設定されていることを活用し、4講座の中で、6会場が1ないし2回、メイン会場として、東京のスタジオとテレビ会議システムで結び、直接の質問ができるよう設定した。

「居ながらにして中央講師と直接やりとりができるのが素晴らしい」「リアルタイムで聞きたいことを質問できる」「臨場感がありその場で解決できる」「会場によっていろいろな質問が出され、それにすぐ応じるのがよい」などの受講者の感想があった。各会場がメイン会場とサブ会場の立場で講師への質問に関わることで、受講者の高い満足度を得られることが分かり、必ずしも毎回メイン会場にならなくても満足感が得られることも確認できた。

#### 【受講者の意見】

- ・会場によっていろいろな質問が出され、それにすぐ応じるのでよい。
- ・再質問ができるようにしたい。
- ・テキストを事前に配布したらどうか。講義内容に応じた質問ができる。
- ・事前にテキストを配布することで、的確な質問ができる。
- ・双方向の質疑応答はよい。このまま続けて欲しい。
- ・臨場感があり、その場で解決ができるのでよい。
- ・対話形式に質問ができればなおよい。
- ・居ながらにして、中央の講師と直接にやり取りできるのが素晴らしい。
- ・リアルタイムで、聞きたいことを質問できる。
- ・質疑応答により、講義内容が広がる。
- ・さらに理解を深めることができた。
- ・講座の流れに沿って質問できるのがよい。
- ・質問するまでの講義の時間が多少短かった。
- ・質問回数が多すぎると、講義内容を深く掘り下げられないという難点もある。
- ・もう少し、深めたいときには時間的な制約がある。
- ・質問と講師の回答に、ちぐはぐな面が見られた。(直接の質問でないからか)
- ・質問は、最後にまとめて行ってもいいのではないか。

#### 講座運営

受講者募集では、広報誌に募集記事を掲載したり、市町村教育委員会共催の講座とするなど市町村教育委員会の協力が得られた。また、市町村教育委員会、施設担当者、受講者の代表者と講座運営会議を開催するなどの動きもあった。

これまでの「あおもり学講座」の運営の中心は各教育事務所であったが、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用することにより、各教育事務所、市町村教育委員会、施設担当者、受講者代表との連携の輪が広がった。

## (2) 独自講義を組み合わせたエル・ネット「オープンカレッジ」について

### 独自講義

「実例を挙げての身近な話題を引用しての話は、共感する面があり有意義であった」「実践をしている方の経験を通しての話は、聞く人を納得させる」「コメンテーターの選出は難しいと思うが、ワークショップで講座が生きてくる」などの受講者の感想からも分かるように、エル・ネット「オープンカレッジ」の学習内容をより身近なものにする上で、独自講義を組み合わせた講座の構築は、重要である。

#### 【受講者の意見】

- ・コメンテーターの選出は難しいと思うが、ワークショップで講座が生きてくる。
- ・普段聞けないことを直接聞くことができる。
- ・実例を挙げての身近な話題を引用しての話は、共感する面があり有意義であった。
- ・目と目を見ながらの講義は楽しい。
- ・実践をしている方の経験を通しての話は、聞く人を納得させる。
- ・机上の理論的なものではなく、実践に基づいた内容で分かりやすかった。
- ・コメンテーターと生きた事柄についてキャッチボールができる。
- ・分かりやすく説明していただいた。
- ・専門家の話だったので、分かりやすかった。

### 地域学としての「あおもり学講座」

東青教育事務所が行ったエル・ネット「オープンカレッジ」を活用した「あおもり学講座」では、琉球大学「沖縄の自然からの警告」を視聴し、自主講義として、八甲田植物園サポートの会世話人をコメンテーターとして、「八甲田はいま！ - パークボランティアが語る - 」と題してワークショップを行った。

また、下北教育事務所では、弘前大学「世界遺産白神山地の魅力」を視聴し、むつ市教育委員会文化財審議員を講師とし「下北の自然態系と人」と題し、白神山地の自然と比較した講義と話し合いが行われた。

このようにエル・ネット「オープンカレッジ」に参加している大学は、それぞれ特色のある講座を提供している。その特色と地域の現代的課題を結びつけることで、地域学としての「あおもり学講座」が生まれ、新たなエル・ネット「オープンカレッジ」の活用となった。

### (3) 新たな動き

#### 社会教育施設での放映

エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した「あおもり学講座」の実施を契機に受信施設のある公民館でエル・ネット「オープンカレッジ」をロビー等で放映する社会教育施設がでてきた。当センターでも、ロビー及びインフォメーションプラザ『ありす』で放送日には、常時放映している。

#### エル・ネット「オープンカレッジ」を利用した自主講座

学習者グループの一つである「あおもり県民カレッジ東青学友会」は、東青教育事務所主催のあおもり学講座の実施にあたって、講座受付や会場設営等、講座運営補助を自主的に行っている。

東青学友会には、そのノウハウを活用して、エル・ネット「オープンカレッジ」を利用した自主講座を運営しようという動きが生まれている。青森県総合社会教育センター内のインフォメーションプラザ『ありす』を会場としてエル・ネット「オープンカレッジ」講座一覧から自分たちが関心のあるものをピックアップし、当日みんなで視聴し、その後、それぞれが感想や意見を述べ合うというものである。

#### あおもり県民カレッジ単位認定番組

あおもり県民カレッジでは、テレビ・ラジオ学習やビデオ学習をあおもり県民カレッジの単位として認定している。生涯学習の機会を提供しているエル・ネット「オープンカレッジ」も新年度からあおもり県民カレッジ単位認定番組とする予定である。

また、当センターでは、エル・ネット「オープンカレッジ」を録画し、インフォメーションプラザ『ありす』内にエル・ネットコーナーを増設し貸し出す準備を進めている。

## 5 今後の課題

エル・ネット「オープンカレッジ」の抱える問題は年々改善されてきているが、エル・ネット「オープンカレッジ」を既存の「あおもり学講座」に活用した講座を構築する上で、まだ解決しなければならない課題もある。

### (1) 講座開催時期等の情報提供について

講座開催の日時を決定するには、各大学のテーマ、内容、放送日時、講義の時間等が年度当初に明らかにされる必要がある。情報の提供が遅ければ、受講者募集や受信施設である公民館等の講義会場の確保に支障をきたすことになる。

また、現在のように、テキストの提供も放送ぎりぎりであれば、独自講義を組み合わせた「あおもり学講座」の場合、地域の実践家との打合わせの時間も十分取れず、独自講義がエル・ネット「オープンカレッジ」の視聴を踏まえた内容になりにくく効果が半減する。そのためにも現在よりも少しでも早い情報の提供が大切である。

## (2) 受信施設的环境について

テレビ画面が小さい、プロジェクターの画面が暗い、音響設備が良くない等、施設的环境に関わる問題が出ている。しかし、これらの問題は、受信施設の職員がエル・ネット「オープンカレッジ」を地域住民がいつでも視聴できる環境に整えていくなど、職員の意識が向上することで工夫し解決できる部分が多い。

## (3) 講座の質について

いかにして質の良い講座を作るのが最大のポイントである。テーマの精選、講義技術の向上、映像をうまく使った講座づくり、双方向性の確保等、講座を発信する大学としては考慮すべき点である。

当センターは、県視聴覚センターの機能を有する利点を活かし、発信する大学が質の良い講座を作るためのサポートを行った。

地元の八戸大学、弘前大学のエル・ネット「オープンカレッジ」の収録を当センターが行い、資料映像や受講者の様子等を交え、臨場感のある魅力的な講座になるように編集した。

### 【放送を利用した講座をよりよいものにするための受講者の意見】

- ・使用する図表等を見やすくする。
- ・講師の顔を映しているだけでなく、資料映像などを多用する。(ビデオ、図、表等)
- ・受講者同士の意見交換の場があればいい。
- ・テキスト等は早めに渡して欲しい。
- ・事前にテキストを配布していただくと予習ができる。
- ・予習ができれば、もっと内容を把握することができる。
- ・講師はピンマイクを使用し、どのような状態でも声が入るようにする。
- ・再放送があればいい。
- ・他会場の全体の様子が映し出されれば、もっと雰囲気ができる。
- ・他会場の様子も映したらどうか。
- ・放送は、夜でもいいのではないか。参加者も増えるのではないか。
- ・講座があることをもっと早く知らせて欲しい。

このような課題を解決していくためには、エル・ネット「オープンカレッジ」の発信者である大学、受信し講座を組み立てる地域、実施機関である高等教育情報化推進協議会がさらに連携して取り組む必要がある。

(青森県総合社会教育センター社会教育主事 横内清信)

### 3. エル・ネット特別講座「コミュニケーションを考える」を開催して

いしかわエル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会  
(石川県立社会教育センター)

#### 1. はじめに

石川県では平成11年度から石川県民大学校を修了した人を対象として大学院を開設している。石川県についてより深く学ぶ専修コースと、講師として自分の特性を生かし、地域で活躍する人を養成する講師養成コースの2コースから成り、最終的には論文や企画書としてまとめ、その成果を発表している。

今回のモデル事業を行うにあたり、エル・ネット「オープンカレッジ」を大学院の講師養成コースの講座の一つとして組み込むとともに、一般県民の参加も呼びかけ、エル・ネット「オープンカレッジ」の講師による直接の講座と意見交換の場を設けた。

また、いしかわ遠隔学習システム(TV会議システム)による、遠隔地との意見交換並びに録画収録した講座を地域VSA T局から全国に向けて発信することも試みた。

これらのモデル事業を通して、エル・ネット「オープンカレッジ」を多くの人に知ってもらうとともに、情報通信技術を活用した生涯学習についての理解を得、その活用促進に結びつけていきたいと考えた。

#### 2. モデル事業の概要

##### (1) エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した事前学習

- ・「異文化コミュニケーション～腹芸の研究～」視聴  
期 日：平成13年8月30日(木)  
講 師：小中 陽太郎(中部大学教授)  
会 場：石川県立社会教育センター 視聴覚鑑賞室  
聴講生：石川県民大学校講師養成コース受講生・修了生 他一般県民 33名
- ・「異文化コミュニケーション～笑顔の研究～」視聴  
期 日：平成13年9月6日(木)  
講 師：小中 陽太郎(中部大学教授)  
会 場：石川県立社会教育センター 視聴覚鑑賞室  
聴講生：石川県民大学校講師養成コース受講生・修了生 他一般県民 28名

##### (2) 「オープンカレッジ」講師による直接講義と遠隔地を含む受講生との意見交換

- ・エル・ネット特別講座「コミュニケーションを考える」 講義と意見交換  
期 日：平成13年9月7日(金)  
講 師：小中 陽太郎(中部大学教授)

コーディネーター：岡野 絹枝（金城大学短期大学部助教授）

受講生：石川県民大学校講師養成コース受講生・修了生 他一般県民 64名  
（遠隔会場含む）

会 場：石川県立社会教育センター

遠隔会場：寺井町立図書館 田鶴浜サンビーム日和が丘

（３）V S A T 発信に向けての録画撮り

機材の準備と会場設営

（４）V S A T 局よりの発信

録画収録した「エル・ネット特別講座」をエル・ネットで全国に発信

日 時：平成13年10月25日（木）14:00～16:00

会 場：石川県教育センター

### ３．モデル事業の成果

（１）エル・ネット「オープンカレッジ」を事前学習に活用して

エル・ネット特別講座の事前学習として２回にわたり、特別講座の講師小中陽太郎先生の講座を視聴した。受講生は県民大学校大学院講師養成コースの受講生が主で、講座の講師として活動するために必要な題材として「コミュニケーション」を取り上げた。エル・ネット「オープンカレッジ」では「腹芸」、「笑顔」の２回放映され、いずれも大変ユニークな題材であった。日常的であってもゆっくりと考えたことがないテーマということで、新しい視点が現れてきた。「自分はどう考えていたんだろうと自分を振り返る材料となった。」「研究テーマが日常にあるということを教えられた。」という感想もある。

また、既成の講座の中にエル・ネット「オープンカレッジ」を取り入れることにより、講座がより充実し、新たな問題意識が提起された。

（２）エル・ネット特別講座

講座運営

この講座を石川県民大学校大学院自主講座の特別プログラムとして位置付け、一般県民にも開放した。自主講座は昨年度県民大学校大学院を修了した人達が自主的に行う講座で、大学院での成果の発表と地域における人材活用の促進を目的としている。

前半は小中陽太郎先生による講義、後半は遠隔会場も含めた意見交換を行った。また、後日地域V S A T局からの発信に備えて、録画収録を行った。

当日の参加者は事前学習を受けた人がほとんどで、事前学習で講師の考え方、視点、資料の展開などを知ることができたこと。自分の考えと違う点、また講義を聴いて今まで何気なく思っていたことについて気づかされたこと、など事前学習により本講座の理解がさらに深まったことがあげられている。

また、事前学習のエル・ネット「オープンカレッジ」の講師に会い、直接講師に質問

ができ満足感があった。講師の人間性に触れ感銘を受けた。事前に映像を通して講座を受けているので、講師に親近感があった。などエル・ネット「オープンカレッジ」と対面講座との組み合わせならではの感想もあった。



〔エル・ネット特別講座風景〕

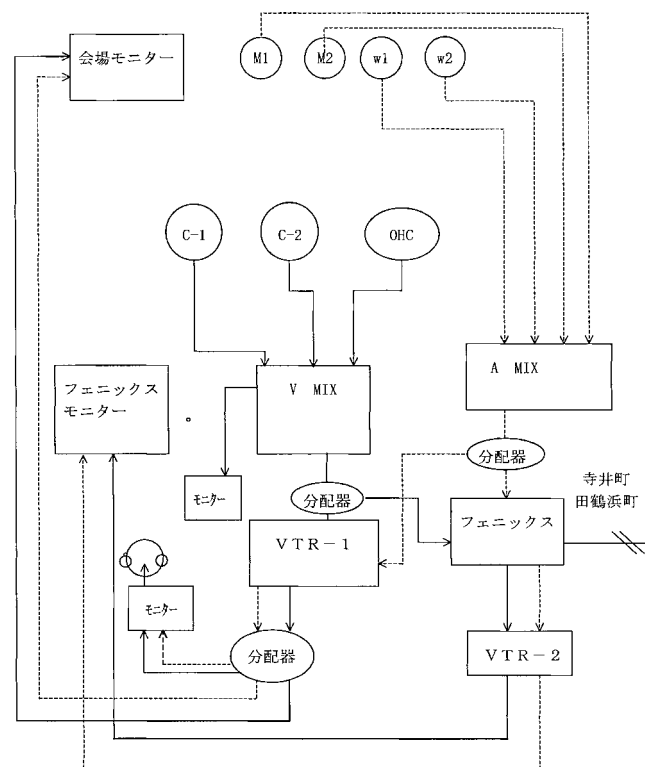


〔講座終了後の反省会〕

### 録画収録

当社会教育センターでは放映のための録画収録は初めてのことであった。遠隔地からのTV会議システムの画像や音声の扱い、機材の効果的な配置、テロップやスーパーの作成、編集作業など初めての経験ばかりであったが、センターのスタッフだけでやり遂げた成果は大きく、今後の取り組みの足がかりとなった。

### 機材配置図





### 遠隔学習システムの活用

石川県では平成10年度に県内すべての市町村にTV会議システムを導入し、「いしかわ遠隔学習システム」として、多方面にわたる事業に活用している。今回はエル・ネット受信施設といしかわ遠隔学習システム設置施設が同一の施設である寺井町立図書館と田鶴浜サンビーム日和が丘の2カ所を選び、事前学習より参加した。南北に長い石川県では、TV会議システムを使つての遠隔地の参加は、広域にわたる学習機会の提供という点で大きな意義を持つ。2回のリハーサルでは接続が不能であったり、音声が悪いなど問題点も多く出てきたが、本番では概ね円滑な運営ができた。



〔遠隔地受講風景（寺井会場）〕



〔遠隔学習システムによる意見交換（寺井会場）〕

### V S A T局からの放映

石川県内で唯一のエル・ネットのV S A T局である石川県教育センターから10月25日に録画収録したものを発信した。これまでは、教育センター制作の学校関係の番組は発信したことがあるが、生涯学習関係や他の機関でつくった番組の発信ははじめてということで、新しい取り組みだといえる。今後地域の特色を生かした番組を制作し、発信することによりエル・ネット視聴者層が増すことが期待される。



〔石川県教育センターより発信〕



〔視聴後の意見交換〕

受講生アンケート結果より

(1) あなたの性別と、何歳代かをお知らせください。

(人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答	合計
男性	0	0	2	1	5	5	0	1	14
女性	1	0	1	3	1	2	1	1	10
計	1	0	3	4	6	7	1	2	24

(2) あなたのお住まいをお知らせください。

(人)

金沢市	小松市	川北町	松任市	内灘町	羽咋市	内浦町	無回答	合計
17	1	1	1	1	1	1	1	24

(3) この講座をどのようにしてお知りになりましたか？

(人)

社会教育センターのチラシ	大学院受講生宛案内	県民大学校	センターからの直接連絡
16	8	1	1

(4) 事前学習としてどの講座を受けられましたか？

(人)

8月30日	9月6日	9月6日(録画分)	受けなかった
12	12	4	8

(5) 衛星による受講の感想

衛星による受講の感想

(人)

よかった	どちらともいえない	あまりよくなかった
12	2	0

【理由】(よかった)

- ・笑顔、腹芸の意味を深く考えなかったが、改めてなるほどと思う点が多かった。
- ・衛星放送にするくらい価値がある。
- ・初めての体験だが、講師の表情等を見ながら拝聴でき、わかりやすかった。
- ・理解しにくいところがある。言葉が聞き取りにくかった。一方的な感あり。

講義についての感想

(人)

よかった	どちらともいえない	あまりよくなかった
14	0	0

【理由】

- ・実際に先生に接することができた。
- ・映像にはない、幕あいのお話も大変楽しかった。
- ・画像で見ていた資料を間近に見ることができ、より理解しやすかった。
- ・臨場感があって良かった。
- ・理解しやすい、生で聞く良さ。
- ・テレビより直接のほうが理解しやすい。
- ・講師と対面して受ける方が良いと思う。放送でも、もっと充実したものにできると思う。
- ・腹芸のコミュニケーションの交換ができた。
- ・お話の内容により理解が深まった。

今後エル・ネットを利用した講座を受講したいか。 (人)

思う	どちらともいえない	あまりよくなかった
18	5	0

【希望する講座内容】

(人)

政治・経済	郷土歴史・ 伝統	自然環境	高齢化問題 ・福祉	医療・健康	教育・文学
8	8	5	8	9	4

国際理解	スポーツ・ 趣味	今日的な問題
6	8	5

他会場との意見交換について

【画面の画像】

(人)

見やすかった	どちらともいえない	あまりよくなかった
4	11	2

【遠隔学習システムの利用について】

- ・音声の事前テスト等、十分にした方が良い。開始時間調整等、臨機応変に対応すべき。
- ・通信技術の発達に伴って、今後もっと多く利用されると思います。何よりも経験、訓練を重ねることになるでしょう。
- ・真ん中にテレビがあって見えなかったので、一体感がない。
- ・映像のピントがあまり良くなかった。音声も不明確な部分があり、聞き取りにくかった。
- ・寺井、田鶴浜からの質問は良かったし、県下のより多くの人たちが受講できるのでよいと思う。

講座の運営について

(人)

よかった	どちらともいえない	あまりよくなかった
15	6	0

【理由】

- ・立派な先生の顔を、なまでお目にかかれたこと。
- ・時間的なものもあるだろうが、もっと会場からの生の意見があると良かった。
- ・マイクが少し聞き取りにくいように思えた。
- ・現代に必要な講義だった。
- ・遠隔学習システムのメリットが今ひとつはっきりしない。
- ・いろんな人がいて誤解が生じやすい。
- ・広範囲な意見を聞くことができた。
- ・他地域の方の意見も聞いた。
- ・コーディネータの先生の進行も良かった。
- ・私が十分聞き取れなかった部分について、コーディネータの方のまとめでよくわかった。

講座全般の意見、感想

- ・これからもこういう形式は続けて欲しい。
- ・PRが不足していたようです。
- ・もっと、安価な講座がすべて揃うような形にして欲しいと思います。
- ・各講座を、もう少し時間を掛けて、より深いお話を伺いたかったです。
- ・小中先生の話は新しい刺激を私に与えてくださったのでありがたかった。ただ、話し方に、抑揚の差があって、小声の部分は聞き取りにくかった。

#### 4. 今後の課題

モデル事業実施委員会並びに講座終了時に行った反省会等で出た意見を集約した。

〔エル・ネット「オープンカレッジ」について〕

- ・エル・ネット「オープンカレッジ」をもっと多くの人に知ってもらい、活用してもらうこと。それが大きな課題である。そのためには視聴者のニーズを掘り起こし、魅力のあるプログラムを組むことが必要であると思われる。受講生のニーズが興味の範囲で止めるのか、専門性を追求するのかによってこれからのエル・ネットの将来の方向性が決まってくると考えられる。
- ・特定の施設へ出向かなければ視聴できないということから、個人の視聴より既存の講座や勉強会などグループでの活用が今後すすめられるであろう。そのためには番組の内容が年度当初に公開されることが必要となってくる。
- ・一方通行の講義ではなく、情報通信技術を活用した双方向による質疑応答などを盛り込むことにより、学習活動を深め、一流の講師による生の講義を受けているような臨場感のある講座になると考える。

〔地方からの発信について〕

- ・情報は中央からという考えが強いが、自分たちが参加した講座が全国に発信されるという事は良い刺激となる。これからは地方の時代といわれている。特色ある地方の文化や生涯学習への取り組みなどが発信されるようになればよい。
- ・エル・ネットを地域単位で活用できるようになれば、テレビ会議システムの音や画像の問題が解決されるのではないだろうか。
- ・現在は学校教育関係の利用が大部分であるが、今後社会教育の部門での利用が進めば良い。

(石川県立社会教育センター学習企画課長 千田純子)

## 4. 岐阜県図書館におけるエル・ネット「オープンカレッジ」実施報告

モデル事業実施委員会  
(岐阜県図書館)

### 1. モデル事業実施の趣旨

従来、図書館における生涯学習の支援は、本や雑誌による紙媒体での情報提供が中心であった。しかし近年では、インターネットやCD-ROMなどのデジタルコンテンツ、オンラインのデータベースなど提供すべき情報は多種多様になり、地域住民の学習意欲はさらに高まってきている。そんな中で、図書館への来館者に対し、遠隔地を含む大学の公開講座を館内で受講できるようにすることはたいへん意義のあることだと考えられる。また、開講場所を図書館にすることにより、講座に関係する文献へのアクセスが速やかにでき、より深い学習が可能になる。

エル・ネット「オープンカレッジ」のモデル事業を実施することで、図書館利用者の自己研鑽・自己研修要求に応え、これから図書館としてどのように生涯学習支援をしていくか研究を行った。

### 2. モデル事業実施計画の策定

岐阜県図書館では、講座開設機関の責任者、社会教育施設の講座実務者等により「教育情報衛星通信ネットワーク高度化推進事業モデル事業実施委員会」（委員9名）を組織し、エル・ネット「オープンカレッジ」の実施方法等について協議を行った。モデル事業の実施は昨年度に引き続いて2度目になる。委員会では、昨年度の成果と反省点をふまえた上で、どのような試みを新たにつけ加えていくかが検討された。

その結果、今年度の新たな試みとして、IT講習会とエル・ネット「オープンカレッジ」を組み合わせた講座を開講することにした。今年度から岐阜県図書館では初心者向けにIT講習会を開講している。IT講習会の受講者からはさらにステップアップした内容の講習を要望する声も多く、それに応える形でエル・ネット「オープンカレッジ」の講座を提供できるのではないかと考えた。そこで予定プログラムの中からIT関連の講座を選び出して検討し、中央学院大学講座「ホームページ作成入門」を開講することにした。

もう一つの開講講座としては、地元大学の講座、図書館の重点収集分野に関係する講座の中から検討し、岐阜大学講座「思春期の子どもの問題行動の悩みをかかえる親のために」の開講を決めた。

講座の実施方法としては、放映は録画によるものとし、また、図書館の所蔵資料から当該講座に関連のある文献を紹介することにした。「ホームページ作成入門」については、同日同会場で行われるIT講習会の終了後に実施することで、IT講習会の受講者が続けて参加できるようにした。IT講習会用のパソコンを使用して実習を伴った受講を可能にした。

### 3. 広報

広報活動としては、ポスター（200枚）を作成して県内市町村教育機関、県内図書館をはじめとする教育関係機関に掲示を依頼するとともに、岐阜県図書館内でチラシを配布した。また、岐阜県図書館ホームページ（<http://www.libray.pref.gifu.jp>）での広報も行った。「ホームページ作成入門」については、IT講習会の募集要項にも開講の案内を掲載した。IT講習会実施日には、その受講者に対して担当者が講座の説明をして参加をよびかけた。受講申込は電話・Eメール・図書館カウンターで受付した。

実際の受講者は事前に申込をした方の他、当日館内のポスターや立て看板を見て会場へ訪れた方も多かった。

### 4. 講座の実施

講座の実施日時と参加人数は次のとおりである。

講座名	日時	人数
中央学院大学講座 「ホームページ作成入門」	第1回 1 / 9（水）17:00～17:45	19
	第2回 1 / 16（水）17:00～17:45	4
	第3回 1 / 30（水）17:00～18:10	10
・岐阜大学講座 「思春期の子どもの問題行動の 悩みをかかえる親のために」	第1回 1 / 13（日）10:00～11:30	12
	第2回 1 / 20（日）10:00～11:30	11

会場には岐阜県図書館の研修室を使用し、事前に録画した講座を放映した。

中央学院大学講座「ホームページ作成入門」はIT講習会（1 / 9、16、30 12:30～16:40受講者25名）の終了後に開講し、IT講習会からの継続受講者も含めての講座になった。会場にはノートパソコン25台を配置し、実際にパソコンを操作しながら受講できるようにした。講義中は図書館職員が常駐し、パソコン操作やホームページ作成に関する質問を受けたりアドバイス等を行った。この講座はエル・ネット「オープンカレッジ」では全2回の放映だったが、IT講習会に合わせ3回に分割して実施した。

また、参考資料として、講師の著作や講座に関連するテーマの資料で岐阜県図書館が所蔵しているものをリストにして配布した。「ホームページ作成入門」の参考資料リストを例として挙げる。

#### 当館でご利用になれる参考図書

- 「ホームページを作るときに開く本」（毎日新聞社）、2001
  - 「全部無料タダでつくるはじめてのホームページ」（翔泳社）、2001
  - 「ネコでもできるホームページの作り方入門の入門」（中経出版）、2000
  - 「土日でマスターHTMLホームページの作り方」（新星出版社）、2000
- 他にもホームページ作成法の図書は多数所蔵しています。

講座終了後、参考資料として挙げた資料について受講者からの問い合わせがあった。講座で興味を持ったテーマの文献への速やかなアクセスは図書館だからこそ可能である。コンピュータ関係等の資料は貸出が非常に多いが、こうしてリスト化することで利用者に資料があることを知ってもらえるという効果もある。

今回の講座に使用したビデオテープは、図書館の所蔵資料とし、一般の映像資料と同様に利用者が館内のAVブースで視聴できるようにした。また、岐阜県図書館では平成13年12月から教養ビデオの貸出を開始しており、エル・ネット「オープンカレッジ」を録画したビデオテープについても、著作権契約で許可が得られるものは貸出の対象としている。

## 5. 事業の成果と今後の課題

成果としては、図書館を会場として講座を開くことで、図書館利用者という幅広い層の人々にエル・ネット「オープンカレッジ」への参加の機会を提供できたことがまず挙げられる。図書館の蔵書の中から講座の参考資料を紹介することで、より深い学習が可能になり、図書館としても資料に対する新しいニーズが生まれるというメリットもあった。また、今回はIT講習会とエルネット「オープンカレッジ」を組み合わせた講座を開講し、新しい受講者を開拓することができた。このように他の事業や講座と連携させることにより相乗効果が生まれ、新たな学習スタイルが見えてくるのではないかと期待している。

今後の課題としては、エル・ネット「オープンカレッジ」を他の教育番組や公開講座とどう差別化していくかが重要な点として挙げられるだろう。エル・ネットの特色として双方向性ということがあるが、今後はこの双方向性をより重視した講座の開講が求められるのではないかと期待している。ただ、双方向であるということは受講者が時間の制約を受けるということでもある。また、双方向といっても画面を通してのコミュニケーションは難しいという問題もある。こうした問題点をどのように解決していくか検討しなければならない。双方向性をもたない講座に関して、ただ一方的に講師が話すという形式ではなく、動きやビジュアルを伴った講義や趣向を凝らした撮影方法を期待したい。

開講場所についての問題もある。岐阜県図書館では研修室を会場としたが、他の催し物との兼ね合いで、リアルタイムで受信し講座を開くことはできなかった。こうした問題は多くの公共施設が抱えているように思う。継続的にエル・ネット「オープンカレッジ」を開講していくためには、専用の会場を設けるなど、受信場所をより整備していく必要がある。

最後に、これからの新しい学習形態への対応を課題として挙げたい。インターネットの急速な普及やアクセス環境の向上により、今後は自宅にいながらにしてデータベースから好きな時に好きな講座を引き出す、という学習形態が主流になってくると思われる。今回、受講者から寄せられた意見にも、学習意欲はあるが時間や場所を制約される講座への参加は難しいというものがあった。学びを要求する側と提供する側との間にすれ違いが起きているという一面がある。従来のエル・ネットの枠にとどまらず、こうした状況や学習意欲に応えられるような講座のあり方についても考えていく必要があるのではないかと期待している。

(岐阜県図書館資料課逐次刊行物係主事 加藤和英)



## 5. 岡山県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業報告

岡山県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

### 1. 趣 旨

岡山大学の公開講座を岡山県の広域的地域に提供し、エル・ネット「オープン・カレッジ」を活用した効率的な遠隔教育の実施方法について、県内エル・ネット受信施設等と連携して調査研究を実施した。

### 2. 実施機関

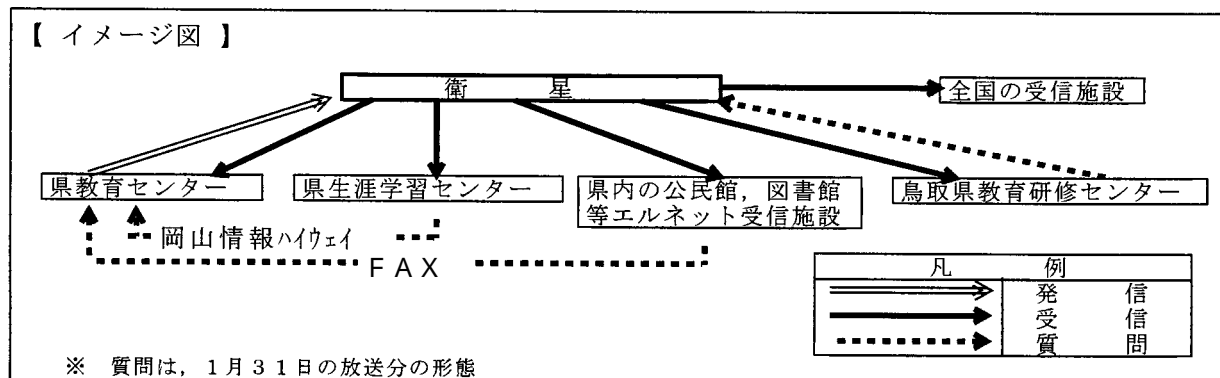
岡山県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会をモデル事業に参加するエル・ネット受信施設関係者25名、学習者の代表者1名、岡山大学関係者3名及び岡山県教育庁関係者6名の総勢35名の委員で構成した。

### 3. 概 要

#### (1) 放送日時等

講 座 名	講 師	放送日時	備 考
吉備の古代文化	岡山大学文学部 松木武彦助教授	1月23日(水) 午前10時～11時30分	録画放送
	岡山大学文学部 新納 泉教授	1月25日(金) 午前10時～11時30分	
地域の教育力	岡山大学教育学部 北神正行教授	1月29日(火) 午前10時～11時30分	
	岡山大学教育学部 山口茂嘉教授	1月31日(木) 午前10時～12時00分	

#### (2) 受信施設での取組



モデル事業参加施設（県生涯学習センター、県内公民館、図書館、学校等24施設）は、各施設に受講者を集め、県教育センターから発信する講座を活用した生涯学習事業を各施設の日程により実施した。

なお、1月31日分の放送は、県教育センターで行う講義をリアルタイムで送信し、鳥取県教育研修センターと衛星通信による双方向での質疑応答を実施、また、県生涯学習センターとは岡山情報ハイウェイ（テレビ会議システム）を活用した双方向での質疑応答を実施した。（その他の受信施設はFAXを活用した質疑応答を実施した。）

#### 4. 連携型での取り組みの経緯

本モデル事業を計画した岡山大学は、文部科学省で開催されたエル・ネット「オープンカレッジ」全体説明会を踏まえ、平成13年4月下旬に岡山県教育庁生涯学習課に次のことを説明し、協力依頼を行った。

- ・本学が独自収録した録画講義又は生講義を岡山県のVSAT局設置施設の県教育センターから全国に送信する。
- ・モデル事業として岡山県内エル・ネット受信施設に受講生を集め、録画及び生講義を受講していただく。
- ・さらに鳥取県のVSAT局にも受講生を集めて受講させ、双方向の質疑応答を実施し、その模様を全国に送信する。

種々意見交換を行った結果、色々と問題はあがるが、協力しながら対応していくこととなった。

さらに岡山大学は、平成13年5月上旬にVSAT局である県教育センターと、県生涯学習課と同様の説明並びに協力依頼を行った。

種々意見交換を行った結果、県教育センターから、できるだけ協力を行う旨の承諾をいただき、さらに、以前に開催した教員研修の一環で開催した成果発表会の事例により作成した資料（台本）等で、番組制作がいかに用意周到に準備を行わなければならないか説明をいただいた。

岡山大学と県の協力体制が整いつつある中、平成13年7月中旬に県教育センターで3者会談を開催した。

始めに、岡山大学より、平成13年7月11日に高等教育情報化推進協議会「衛星通信を利用した大学公開講座モデル事業」に係る事務連絡会の打ち合わせ内容について、説明を行った。

まず、モデル事業について、今回は二つのモデル事業が存在し、一つは大学独自収録による地方VSAT局を利用した映像発信を行う、さらに、付帯事業として鳥取県との双方向送受信による質疑応答を行うモデル事業。

もう一つは、エル・ネット「オープンカレッジ」を地域の生涯学習に如何に活用できるか調査研究を行うモデル事業。両モデル事業には深い関わりがあるので、3者で連携を深めて推進していくことで了承された。

今回の打ち合わせの目的である県教育センターの協力体制については、次のような意見

であった。

- 1) 教育センターの現有スタッフだけでは、経験のない親局での鳥取県との双方向送受信による質疑応答は無理があり、派遣スタッフが必要である。
- 2) メリットとしては、派遣スタッフとの合同作業で県教育センタースタッフの技術向上が考えられる。

平成13年7月下旬に東京で開催されたモデル事業説明会の帰岡後に岡山大学と県生涯学習課とで具体的な打ち合わせを行った。

始めに、岡山大学より、高等教育情報化推進協議会で開催された「教育情報衛星通信ネットワーク高度化推進事業」モデル事業説明会について報告、続いて、県生涯学習課より県内生涯学習の一環として取り組む体制を考えた計画案によりモデル事業の説明があった。細かいところで種々意見交換を行い、修正・加筆等を行いまとめていくこととした。

翌日、岡山大学及び県生涯学習課から、受信施設の中心となる県生涯学習センターに対し、大学独自収録事業及び活用モデル事業を推進するに至った経緯及びモデル事業計画案の説明を行い、協力を依頼し、了承をいただいた。

今後、さらに計画案を練り直し、実施委員会を立ち上げることとなった。

なお、委員長は県生涯学習課長が就任することとなった。

実施委員会の立ち上げに先立ち、平成13年9月4日に岡山県内の受信施設を対象にモデル事業説明会を県生涯学習センターで開催した。

参加者は約50施設であったが、県生涯学習課からの趣旨、経緯、概要等の説明の後、エル・ネットの利用状況、講師への講義内容についての事前要望、双方向での質疑応答の重要性など質疑応答並びに情報交換が行われた。

平成13年9月27日に岡山県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会を県生涯学習センターで開催した。

始めに、県生涯学習課からモデル事業の進め方及びスケジュールについて説明の後、参加予定の各受信施設から実施計画についての私案が示された。

引き続き、次のような意見交換が行われた。

Q1：モデル事業の実施期限はあるのか。

A1：2月下旬の実施委員会で事業のまとめを行うこととしているので、2月中旬までに実施して欲しい。

Q2：「パンフレット」は字を大きくしたり、イラスト・写真を使ったりして、見やすいものにして欲しい。

A2：実施経費との兼ね合いもあるが、A4見開きで、イラスト・写真も取り入れた見やすいものにしたい。

Q3：「募集要項」の原稿を受信施設で加工して、広報に活用することが可能か。

A3：可能な範囲でファイルを提供したいと考えているので、活用いただきたい。

Q4：受講者の数は最低何人以上という基準があるのか。

A4：各施設の状況に応じて、実施していただきたい。人数についての基準はない。

Q5：学習者事前アンケートについて、提出期限が10月19日となっているが、受講者募集の前で、受講者の意見は聴取できない。期限の延長はできないか。

- A 5 : 生放送で実施する1月31日放送予定の「子どもの幸せと親の役割」以外は、11月から順次録画を行うために、このような提出期限の設定となっていますが、録画収録のぎりぎりまで対応します。
- Q 6 : 受講者にとって「修了証書」は大きな魅力なので、是非とも発行して欲しい。
- A 6 : 今回は岡山大学長名で各講座ごとに2回とも受講された方に発行する予定である。受講者各自への郵送等も考えてはいるが、各施設からの要望があれば受講会場で手渡しする方法などについても検討したい。
- Q 7 : 受講申込みをしていない方にも要望があれば受講させても良いか。
- A 7 : 受講者の取りまとめは、テキストの必要部数を知るためのものである。インターネットでのダウンロードも可能なので、施設で受入が可能であれば受講させていただきたい。
- Q 8 : 各テーマについて2回の講義が行われるが、第1回と第2回の受講場所が違って良いのか。
- A 8 : 受講場所が違って修了証書は発行できる。各施設間で調整し、ぜひ対応していただきたい。
- Q 9 : 近隣市町村からの受講者の受入については、どう考えればよいのか。
- A 9 : エル・ネットの趣旨からしても、できれば受け入れていただきたいが、各施設の判断にお任せする。
- Q 10 : 事業経費は何に使われるのか。各受信施設にも配分されるのか。
- A 10 : モデル事業の広報費、実施委員会経費、打ち合わせ旅費などを含んだもので、各受信施設での事業実施にあたっては、なるべくお金の掛からない方法を検討いただきたい。どうしても経費が必要な場合は、「事業実施計画」に要望を記入していただければ、岡山大学が各受信施設と個別に調整させていただく。
- Q 11 : 岡山大学にフォローアップ講座の講師をお願いする場合の経費は。
- A 11 : 基本的に各先生方にはボランティアで参加いただいていますので、その場合の経費は不要である。ただし、日程等は調整が必要である。
- Q 12 : テレビ会議システムでの質疑応答は、県生涯学習センターだけか。
- A 12 : 今回は、他の施設については対応が困難であり、FAXで対応願いたい。

## 5 . 各受信施設での事業

### 【基本型】

各受信施設は、岡山大学の2講座4テーマの講座をエル・ネット「オープンカレッジ」で放送当日に受信し、(当日以外の日で活用する場合は、録画しておき、受信施設の日程で実施する。)受講会場に受講者を集めて生涯学習事業を実施した。

### 【応用型】

「岡山県生涯学習大学」の連携講座、「地域文化研究会」、公民館講座、「ふるさと講座」、中学校のPTA研修会講座などに位置付けて取り組んだ。

さらに、県生涯学習センターでは、録画放送の講義後、講師本人を招き、フォローアッ

ブ講座を受講者参加型のワークショップで実施し、同時に岡山情報ハイウェイで結ばれたテレビ会議システムでアクティブライフ井原の受講者も参加した。

美星町では、数日後、受講者参加型のワークショップを開催し、さらに、後日、講師本人を招き、フォローアップ講座を開設するなど、数力所の受信施設ではあるが、積極的な試みが実施された。

広報活動は、実施委員会が作成したパンフレットの配布、市町村の広報紙及び子ども情報誌への募集記事の掲載、HPでの広報、地元マスコミとの連携、町内ＣＶＴＶの活用、参観日での受講呼びかけ、ダイレクトメール等受講者集めにさまざまな工夫が見られた。

## 6. 各受信施設の実施状況

\*エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業受講生数集計表 (人)

施設名	「吉備の古代文化」		「地域の教育力」	
	第1回「吉備文化の形成」	第2回「吉備文化の変質」	第1回「開かれた学校づくりと地域の教育力」	第2回「子どもの幸せと親の役割」
国立吉備少年自然の家	3	1	3	3
県生涯学習センター	49	44	42	46
赤坂町中央公民館	13	10	9	9
加茂川町農村環境改善センター	13	9	9	8
瀬戸町立瀬戸中学校	68	64	36	36
灘崎町町民会館	14	14		
建部町中央公民館	14	11	9	8
和気町総合福祉センター			22	31
アクティブライフ井原	16	14	9	10
鴨方町中央公民館	24	24	0	1
金光町立中央公民館	23	25	10	10
里庄町立図書館	13	10	8	9
美星町中央公民館	6	5	22	24
船穂町民会館	25	24	24	25
山手村民センター	6	5	3	3
芳井町民会館	4	4	6	6
賀陽町立大和中学校	3	3	3	1
神郷町中央公民館	9	6	6	8
高梁市文化交流館	6	4	9	4
哲多町町民センター	10	5	10	10
作東町立図書館	11	11	3	0
作東町立吉野小学校			10	12
津山市立津山西中学校	9	9	15	12
ハートピア勝北	13	13	12	12
県教育センター				150
合計	352	315	280	438

\*受信施設から意見（良かった点）

- ・フォローアップ講座を開設した施設では、より具体的な内容を知ることができた。
- ・誰でも、無料で、居住地の近くで、居ながらに講義を受講できる。
- ・モデル事業のバックアップがあり、ゆとりを持って実施できた。
- ・録画することにより、施設事業の日程と調整できる。
- ・生放送は臨場感あり、リアルタイムの質疑応答が一層効果があった。
- ・修了証書が励みになったようである。
- ・テキストが参考になった。（図等の内容の充実を願いたい。）

\*受信施設からの意見（悪かった点）

- ・放送時間帯と活用時間帯は地域性を考慮した方が受講生が集まるのではないか。
- ・映像・音声不明瞭な部分があり、高齢者にとっては苦しかった。
- ・講師に対して、受講生の反応などの状況が反映しない。
- ・直接の講義になれた人には、映像講義は疲れる。
- ・エル・ネットの認知度が低く、受講者募集に苦労した。
- ・FAXでの質疑では即座の応答が望めないの、質問しない人がいる。
- ・受信施設の運営スタッフ不足、視聴室の狭小。
- ・受講者の募集時期が早すぎた。
- ・テキストの内容をもっと充実してほしい。
- ・視聴するだけの公開講座では多くの参加者は望めない。

## 7. エル・ネット「オープンカレッジ」の今後の活用と課題

活用についての各受信施設の意見は、

- ・公民館主催講座に位置づけて活用したいが、単位認定、ライセンスにつながるシステムがあれば良いと思う。
- ・各学習団体に働きかけて参加体験者を増やし、自主的に利用するように育てていく。
- ・今回の録画ビデオを学校、地区等に貸し出しして魅力をPRしていく。
- ・学校休業日の土・日を開放し、地域との連携を深めたい。
- ・箱ものに魂を入れるべき取組を継続したい。
- ・広報手段を考え、住民の眠っているニーズを喚起したい。
- ・今後もさまざまな研修内容とタイアップを図りながら活用したい。
- ・各大学の内容を吟味し、年数回程度、教養講座として受講生を募集して活用する。将来的には、市独自の単位認定システムを検討する。
- ・図書館ニュース（月刊）、公民館だより等で「オープンカレッジ」の講座案内を行い、希望者に受講していただく。
- ・町の広報紙に「オープンカレッジ」の年間講座予定を掲載し、要望のある講座を視聴する。
- ・人員、設備の充実が問題、当面は地元大学の放送を基本に地域住民に提供したい。
- ・地元新聞に掲載されたこともあり、関心のある問い合わせが何件もあり、今後の活用

を検討している。

以上のように、ほとんどの参加受信施設が今後の活用に意欲的であり、次のような課題に取り組み、エル・ネット「オープンカレッジ」の活用による効率的な遠隔教育の実施が定着していくと思われる。

【岡山大学の取り組み】

- ・いかに受講生に興味深いテーマで講座を開設するか。
- ・大学レベルを保ち、分かりやすい講義を行い、尚かつ写真・テロップ等を取り込むことで対面講義とは別の楽しさを作り出す。
- ・双方向の重要性を鑑み、生放送での講義、録画放送であっても受講生を前にしての講義を試みる。

【岡山県並びに受信施設の取り組み】

- ・高齢者対応ということだけでなく、見やすく聞き易い受信設備（大画面、高音質スピーカー等）受講しやすい対応等環境を整える必要がある。
- ・視聴するだけでなく、エル・ネットを取り込んだ生涯教育を考察し、受講生が主体となる事業を展開する。
- ・県や施設が一体となって、積極的により多くの人々に広報活動を展開する。

## 8. 受講者へのアンケート～集計結果～

回答者 305名

1 性別	男 57%	女 43%
2 年齢	平均61歳	
	男 平均 65歳	女 平均 55歳
	最年長90歳	最年長78歳
	最年少27歳	最年少25歳

### 3 職業

公務員	2	学校事務職員	2	林業	1
主婦	59	非常勤講師	1	機械メンテナンス業	1
農業	29	嘱託職員	1	営業	1
会社員	20	臨時職員	1	ピアノ教師	1
元会社員	6	保育士	1	元建設業	1
教員	19	介護福祉士	1	無職	58
元教員	8	看護婦	1	自営業	6
社会教育指導員	1	ホームヘルパー	2	障害者施設指導員	1

### 4 岡山大学公開講座の受講は、今回で何回目ですか？

1. 今回が初めて 252      2. 複数回 40

### 5 エル・ネットの視聴は、今回で何回目ですか？

1. 今回が初めて 252      2. 複数回 6

今回の公開講座について

6 受講の動機について

1. 一般教養を高めるため 129
2. 職業上の専門知識を得たいため 35
3. 身近な問題に関するテーマがあったため 133

7 今回の公開講座が開かれることを何によって知りましたか

町の広報誌	56	広報誌	18	オープンカレッジニュース	2
生涯学習センター	22	広告	5	新聞	3
パンフレット	43	回覧版	4	知人から	2
教育委員会	19	中学からのプリント	6	成人大学で聞いた	2
学校からの案内	25	職場	3	その他	8
公民館	35	友人	3		
文化財を語る会	8	有線放送	8		

8 受講した感想について

1. 期待どおり 89
2. 大体期待どおり 141
3. やや期待はずれ 33
4. 期待はずれ 3名

9 講義内容について

1. 理解できた 114
2. 大体理解できた 149
3. やや理解できなかった 22
4. 理解できなかった 3

10 講義時間について

1. 適 当 246
2. 長 い 4
3. やや長い 12
4. 短 い 10
5. やや短い 20

11 講義題目(テーマ)について

1. 適 当 132名
2. 大体適当 62名
3. やや不適当 1名
4. 不適当 0名

12 録画放送又は生放送をテレビ画面で受講する講義について、どう思われましたか

1. 良い 225
2. あまり良くない 53
3. その他 15

理由：講義内容が判りやすい。音声も良い。リズム感があり、受講後心地良い。

いい講師で、いいものが聴ける。

音声が悪くない。画像が鮮明でない。

近くの会場で受講できる。

各テーマのフォローがあり良い。

手軽に専門分野の知識が得られる。

楽な姿勢で受講できる。

フォローアップ講座をしてほしい。

講師も受講生も姿勢を正して勉強できた。

ノートに書く時間がなかった。

気楽に受講できる。



ビデオで後からも見られる。  
レジュメに沿って、詳しい解説が聞ける。  
直接講師とのやり取りができない。  
古代吉備の歴史シリーズ化してほしい。  
講師の上手な話術で、生で講義を受けているよう。  
大学まで出かけなくても最新の研究に基づく専門知識を得ることができる。  
時と場所を限定しないで見ることができる。  
写真やデータも多く、理解しやすい。  
図表等がもう少し鮮明であれば良い。  
地域での活性化につながる。  
情報を活用すれば、どこにいても、自分の教養を高めることができる。  
誰でも参加できる。お金がかからない。  
参加者と話題が共有できる。  
少人数でも受講できるのは良い。  
事前に講義資料に目を通すことができる。  
テキストがありよい。適度な緊張感がありよい。  
地方に住む者にも、学習の機会が増える。

13 生放送を利用して、質疑応答ができることについてどう思われましたか

- |            |     |
|------------|-----|
| 1. 良い      | 272 |
| 2. あまり良くない | 5   |
| 3. その他     | 6   |

理由：先生の意見を直接聞ける

聞く一方でなく、質疑応答ができるのが良い。  
質問する時間が少なかった  
講義の内容が深められた。  
広い視野からの質問ができて良い。  
時間的な問題と、木で鼻をくくったような対応もあり、一考の必要あり。  
自分の知りたいことをまとめられる。  
友達と共に勉強できるのが良い。  
その場ではなく、あとでFAXというのは、まどろっこしい。  
生放送は、時間的に難しい。  
相互理解できる。  
より一層関心が高まった。  
恥ずかしいことでも、後でFAXで質問できる。  
慣れていないので、質問しにくい。  
他人の質問を聞くことで、自分では気が付かなかった点が認識できる。  
講義が一方的にならないので、受講者の参加意識が高まる。  
質疑できることは、丁寧な配慮だと思う。  
講師の方を身近に感じることができる。

他の会場でも実際に聞くのと変わらない臨場感がある。

時間に余裕がなく少し残念。

今後の公開講座について

14 実施の時間帯の希望について

- 1 . 月曜日～金曜日の午前 112      2 . 月曜日～金曜日の午後 56  
3 . 月曜日～金曜日の夜間 33      4 . 土・日曜日 78

15 興味ある分野について（興味ある分野に を記入してください。複数可）

名	分 野	内 容 例
22	スポーツ	実技の指導を中心としたもの
91	趣 味	美術・工芸・園芸・書道・音楽等
21	語 学	外国語講座等
153	郷 土	地域をテーマに選んだもの
42	家庭生活	家庭生活に関するもの
88	健康保健	「心の健康」「家庭看護」等 健康、保健に関するもの
9	一般教養	上記以外の文学、教育、経済、科学等に関するもの
39	専門知識	コンピュータプログラミング等の専門的技術、職業上役立つ専門的知識

16 今後の公開講座で希望するご意見、ご希望、今回の公開講座に関する感想等がありましたら、記入してください。

- ・IT革命による技術の向上により、遠隔地の講義が居ながら受講できるのが驚異です。
- ・学生時代に戻ったように楽しく受講しました。「子どもの幸せと親の役割」の講義には感動しました。マザーテレサの言葉を引用されましたが、全く同感です。
- ・映像を見やすくして欲しい。
- ・今回限りでなく続けて欲しい。
- ・質疑応答時間が30分では短すぎる。
- ・たいへん勉強になりました。地域教育に役立ててください。
- ・学びたい、勉強したいために参加しているのだから、受け入れる方にも、設備、心使い等環境を整えて欲しい。
- ・受講を評価し、単位認定に使用したらどうか。
- ・テレビだと言葉がハッキリ聞き取れない、画面の細部が見えにくい、放送時間の都合あるだろうが講義の進行が早すぎるので、講義を分割して時間をかけて教えていただきたい。
- ・吉備の古代文化は楽しかったです。現地見学ができれば良いと思います。
- ・知・徳・体の生きる力がバランス良く保たれ、豊かな人と人とのつながりが尚一層深まることを再認識しました。有意義な時間をありがとうございました。
- ・学ぶ機会を与えていただき感謝しています。見づらい場面もありましたが勉強になりました。
- ・事前のPRをもっとしてほしい。
- ・引き続き、岡山の歴史について講義をお願いしたい。

- ・受講により資格（介護、カウンセラー等）が認定されるようなシステムを考えて欲しい。
- ・忙しい毎日の中で、身近で公開講座を受講でき、リフレッシュできました。
- ・数回の連続した講義の方が望ましい。
- ・将来的には会場の放送設備を充実（大画面、音質の良いスピーカーとか）しないと高齢者には理解度が低いと思われる。
- ・私自身が幸せの3つの条件を理解し、心にゆとりをもって子どもと対話しなければと思いました。
- ・すばらしい取り組みありがとうございました。もっとたくさんの方が参加していただければいいですね。
- ・興味がわくような画面構成、シナリオを考えて放送して欲しい。前に受講生がいない場合は、話しづらいただろうけれど、聞く方も聞きにくい。
- ・テキストをもっと詳しくしてほしい。図や写真の挿入。
- ・暖かい時期にやってほしい。
- ・いろいろ勉強したくなりました。
- ・もっと身近な場所で受講できればと思いました。将来的に家庭での受講が希望です。
- ・聞くという学習だけではなく、作るといような作業ができる内容も考えてみたらどうか。
- ・夜間・休日の放送を望みます。本当に聞いて欲しい人に聞いていただけるにはどうすればよいでしょう。
- ・大学の講義なので、子どもと一緒に参加するような内容は無理でしょうね。
- ・今回初めて受講できて大変良かったと喜んでおります。もっとたくさんの方々に受講していただきたいと思います。新しい情報を取り入れ、頭の活性化にもなり、情報や知識の習得もでき、生涯学習の大切さを実感しました。
- ・定年後を夫婦で静かに送っておりますが、4日間一生懸命勉強できました。
- ・「子どもの幸せと親の役割」については、親の役割の重大さを実感しました。息子ら夫婦に受講させたかったです。

以 上

（岡山大学総務課専門職員 石田仁樹）

## 6 . 岡山大学と連携した公開講座「子どもの幸せと親の役割」

鳥取県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実行委員会  
(鳥取県教育委員会事務局生涯学習課)

### 1 . 事業の概要

#### (1) ねらい

特定の大学と連携とり、エル・ネット「オープンカレッジ」を利用した公開講座を開催するとともに、衛星を活用したV S A T局間での双方向学習の有効性を検証する。

#### (2) 会 場

鳥取県内3市町村(国府町、東伯町、米子市)および鳥取県教育研修センター

#### (3) 講 座

平成14年1月31日(木) 午前10:00~12:00

テーマ『地域の教育力』 「子どもの幸せと親の役割」

岡山大学教育学部 教授 山口 茂嘉(やまぐち しげよし)

(岡山大学:2回講座の内1回を活用)

#### (4) 参加者数

合計 134名

#### (5) 内 容

岡山大学及び岡山県教育センターと連携した公開講座を実施し、講座内容をより深く理解するために、双方向での質疑応答等の受講実施形態を工夫した。

鳥取県教育研修センター(V S A T局)と岡山県教育センター(V S A T局)とを衛星回線で結んだ双方向での質疑応答

サブ会場(国府中央公民館・まなびタウンとうはく・米子市児童文化センター)からの質問をF A Xで受け付け、鳥取県教育研修センター経由での質問

その他のエル・ネット受信施設(公民館等)での講座の視聴

エル・ネット活用に係る市町村担当者の連絡協議会の開催

受講後、モデル事業に関するアンケート調査の実施(岡山県と比較検討するために調査項目を統一する)

## 2. 実施計画

第1回実行委員会

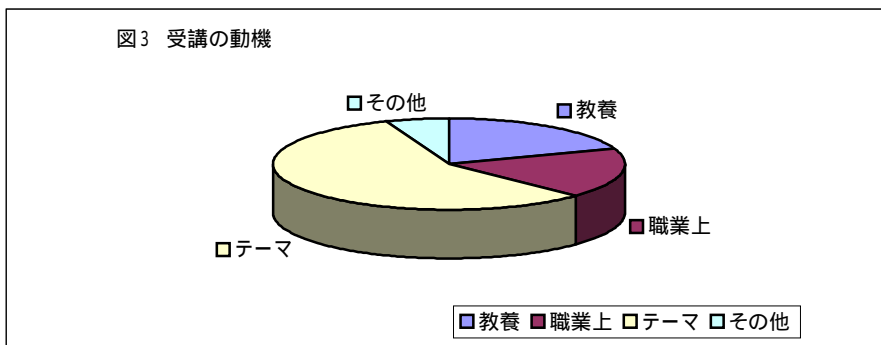
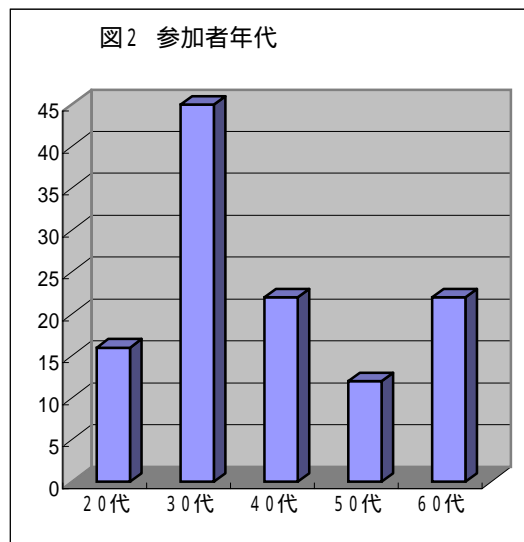
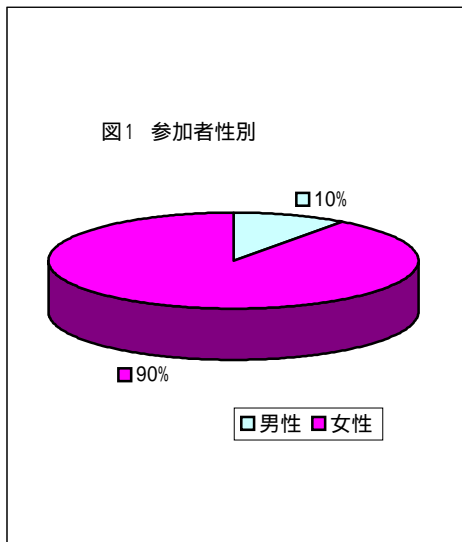
第2回実行委員会

第3回実行委員会

協議事項 ・事業内容検討および決定 ・広報活動（ポスター、ちらし、広報誌への掲載、地方マスコミとの協力） ・受講生の募集 ・申込書  
・案内文書配布計画 ・県民カレッジとの連携 ・質問のルールづくり  
・当日の運営 ・託児について ・講座終了後のフォローアップ  
・アンケート調査の実施 ・連絡協議会の企画 ・岡山会場との連絡

## 3. 事業の成果

天候のため、予定人数よりやや少ない受講となったが、内容に沿った質問がなされ、充実した講座となった。参加者は、子どもを持つ主婦を中心に、20歳代から60歳以上まで幅広い年齢層であった。



(1) 講座内容について

分かりやすく、参加者のニーズに応える講座内容であった。受講者の感想も、「期待通りであった」、「大体期待通りであった」という意見が多かった。講座の時間については、2時間程度が適当であるという意見が多数であった。



【受講した感想】

期待通り	大体期待通り	やや期待はずれ	期待はずれ
66	47	3	0

(人)

- ・エル・ネットは初めてだが、とてもよかった。講義も期待どおり。
- ・初めての受講だったが、楽な気持ちで聞けた。楽しく聞けた。
- ・気軽に参加できてよい。講義内容もよかった。
- ・メイン会場に行かなくても受講でき、いろいろな質疑も参考になった。
- ・すばらしい講座だった。また今回のような講義を実施してほしい。

【講義内容について】

理解できた	大体理解できた	やや理解できなかった
85	30	4

(人)

- ・生活に生かして、夢のもてる内容であった。
- ・とてもためになった。今後子どもへの接し方を考えたい。
- ・とてもわかりやすく、よい勉強になった。臨場感もあった。
- ・内容的に、とてもためになった。講師の話もメリハリがありよい。
- ・内容のよい講義には手段としては何でもよい。わかりやすい。
- ・わかりやすい、よい講義内容だった。期待以上だった。

【講義時間について】

適当	長い	やや長い	短い	やや短い
110	2	4	2	0

(人)

- ・おもしろかったが、時間的制約があって残念。
- ・質問の時間を多くしてほしい。
- ・質疑応答の時間が、少し短く感じた。

## (2) 双方向性の効果について

双方向により、より対面講座形式に近い形で講座を受講することができた。参加者の感想には、「直接聞いているのと同じ感覚で聞けた」、「遠隔地から直接質問できてよかった」、「自分が学びたいことを身近な場所で学べるよい機会であった」など、肯定的なものが多かった。

### 【録画放送又は生放送をテレビ画面で受講する講座について】

良い	あまり良くない	その他
106	4	4

(人)

- ・身近な場所で学べる大変いい機会である。
- ・著名な講師の話が居ながらにして聞けるのはよい。
- ・臨場感があまりない。質問がしにくい。
- ・生にこしたことはないが、身近でよい講義を聞けるのは魅力。
- ・生にはかなわないが、21世紀の講座はこういう型式が増える。
- ・放送は違和感なく、緊張もしないのでよかった。質疑も新鮮だった。
- ・テレビによる受講は合理的でよいと思った。
- ・遠隔地から質問できることは意義深い。内容も大変よかった。
- ・生の講義の方が気持ちがかもると思う。放送は目が疲れる。

### 【生放送を利用して、質疑応答ができることについて】

良い	あまり良くない	その他
103	3	5

(人)

- ・実際にその場で受講しているような臨場感があった。
- ・生放送の中で多くの意見を聞くことができ、よかった。
- ・他の会場の質問も聞くことができ、すばらしい。
- ・生放送なので、講座を受けているという実感があった。
- ・速やかに質問の回答を得ることができ、よかった。
- ・参加している感じが強くもてたのでよかった。
- ・一方通行の講義でなくよかった。
- ・質疑が不十分になりがちだが、双方向の講義形式でよい。
- ・つながっている感じ。直接聞いているのと変わらなくてよい。

## (3) とっとり県民カレッジ(生涯学習推進講座)等との連携について

「とっとり県民カレッジ」連携講座として位置づけたことにより、参加者の確保が容易になった。講座の内容にもよるが、今後、エル・ネット「オープンカレッジ」を地域が実施している生涯学習推進講座などと連携させて、有効に活用することも考えられる。

#### (4) 運営について

メイン会場のほかにサブ会場を3か所設け、サブ会場からの質問をFAXで受け付けた。各サブ会場からの質問を早めに締め切ったことで、質問の選定をスムーズに行うことができた。各サブ会場からの質問が取り上げられると、歓声が起こり一体感を共有することができた。

国府町会場では館内共聴システムが導入されており、主会場とは別に子ども連れの主婦専用の部屋を設けるなど、受講者に配慮した工夫を行った。また、別の会場では子ども連れの主婦のために会場内に託児所を設け、それにともない託児員を依頼した。



#### (5) 講座終了後のフォローアップについて

受講者のために、今回は講師先生の大変な御尽力により、放送後質問を集約・送付して後日回答を送っていただくように御配慮いただいた。参加者には大変好評で、質問も多く、遠隔の地でありながら受講者に満足していただいた大きな要因の一つと感じた。

### 4. 今後の課題

#### (1) 双方向における送受信体制について

実施日の前日に行われた試験放送の際、雪と雲の影響のため映像が途切れてしまった。V S A T局のおかれた環境(機器等も含む)によっては、送受信レベルの十分な確保が困難であると考えられる。講座当日は天候に恵まれ、送信状態は良好であったが、V S A T局からの送受信における課題である。

#### (2) 運営に関して

メイン会場のほかに、サブ会場からの質問をFAXで受け付ける形を併用したが、そのためにメイン会場からの質問に対して、十分に対応することができなかった。双方向性を重視するのなら、メイン会場をもっと中心として運営すべきであった。

今回は家庭教育の講座ということで、子育て中の保護者が多かったため、申し込みの時点で託児についての問い合わせも多く、託児の実施の必要性を強く感じた。各会場希望状況により託児を実施したが、サブ会場の1つでは事前に託児の数等が把握できなかったため、多くの子どもたちを数人の託児員で対応し、大変であった。事前に託児実施も要綱に盛り込み、数を把握するとともに託児ボランティアを確保することが必要であると感じた。



(3) 事業の支援体制について

ポスター、ちらし、広報誌への掲載、地方マスコミの協力を得ながら広報活動を展開したが、一般応募の受講者は少なく、「とっとり県民カレッジ」の受講者、直接案内を送付した子育てサークル関係の受講者などが大半であった。また、今回初めてエル・ネット「オープンカレッジ」を視聴したという人がほとんどであった。より多くの人にエル・ネット「オープンカレッジ」を知ってもらい活用してもらうために、さらに広報活動に力を入れることを強く感じた。

(4) その他

FAXでの質問は、時間の都合もあり各会場1つを選定した。今回は、講師の先生の御配慮もあり、実施後の質問も受け付けていただいたが、このような対応が毎回可能なかどうかは不確定であり、講座をより充実したものにするための課題である。

5. 今後の公開講座についての意見等

【実施時間帯の希望】

月曜～金曜午前	月曜～金曜午後	月曜～金曜夜間	土・日曜
73	11	6	15

(人)

- ・働く父母の方にも聞いてもらえる場をつくってほしい。

【興味ある分野について】

(複数回答可)

分野	内容例	回答数
スポーツ	実技の指導を中心としたもの	9
趣味	美術・工芸・園芸・書道・音楽等	29
語学	外国語講座等	18
郷土	地域をテーマに選んだもの	19
家庭生活	家庭生活に関するもの	54
健康保健	「心の健康」「家庭看護」等	55
一般教養	上記以外の文学、教育、経済、科学等	24
専門知識	コンピュータ等の専門的技術に関するもの	19
その他	地域の教育力、社会教育一般 など	5

(人)

【運営に関して】

- ・後日の質問受付がありがたい。
- ・託児がありよかった。
- ・別室で子どもと一緒に受講できる配慮がしてあり、よかった。
- ・テレビでの受講の成否は会場の設営にもよると思う。
- ・椅子の配置を考えて欲しい。(見えにくかった)

【広報に関して】

- ・ 広報の工夫がもう少し必要。
- ・ 各公民館などでのPR活動が必要。相互交流できる場がほしい。
- ・ エル・ネットのすばらしさをもっと知らせる場、参加者の意見交換の場が必要。
- ・ PR、交通アクセス（駐車場、案内板）の充実。

【機器に関して】

- ・ 自宅のパソコンで受講できたらすごくいいと思った。家族で受講できる場を。

（鳥取県教育委員会生涯学習課推進係 岸本尚幸）

## 7. 島根市町村コミュニティ・カレッジ協議会

### (島根大学生涯学習教育研究センター)

#### 1. モデル事業の概要

エル・ネット「オープンカレッジ」は、周知のとおり、衛星通信システムを利用した遠隔教育であるが、今日では地上系通信網も活用することで双方向の質疑も可能とする統合的な遠隔教育となってきた。

衛星通信の広域性や同時性などの特性を鑑みると、距離にして約300kmと東西に細長く広がった山陰地方は、中山間地の過疎地域を多く抱え交通の利便性も悪く、加えて高等教育機関も少ないことから、遠隔教育（衛星通信）による「オープンカレッジ」などの大学公開講座は、まさに有効な学習形態と考えられる。

そのため、島根大学では平成9年度から「衛星通信を利用した大学公開講座」のモデル事業に参画しており、その講座開設の基本的な方針として、「地域住民にとって必要性もあり、関心が高く、地域性のある内容で、系統的かつ専門性のあること」としてきた。

本年度のモデル事業「島根市町村コミュニティ・カレッジ」は、昨年度実施した学習メニュー方式と地域連携方式を取り入れたモデル事業を継続・発展させ、参加市町村の拡大・広域化を図るとともに、新たな試みとして、講座選択への地元参画の方法とテキストの配布方法の地域化等いくつかの新しい課題に取り組んでみた。

以下、今年度のモデル事業の概要をまとめる。

エル・ネット「オープンカレッジ」を受信する7市町と島根大学等の担当者および、関係者をもって島根市町村コミュニティ・カレッジ協議会を結成し、モデル事業の実施母体とした。

協議会の7市町：松江市、江津市、頓原町、石見町、匹見町、西郷町、西伯町

協議会では、「オープンカレッジ」に講座を公開している参加46大学から、28大学30講座72講義を選択し、放送講義と録画講義（ビデオ）を組み合わせ、バーチャルな「島根市町村コミュニティ・カレッジ」の講座体系を構築し、受信施設で受講者自らが講義を選択して受講できる支援体制を確立した。

受講者は、放送講義と録画講義（ビデオ）をあわせた学習メニュー表の中から、本人の学習目的にあった講義を選択し、モデル事業実施期間中（12月中旬から1月末まで、5週間18日間）に合計10以上の講義を受講することを目標としている。ただし、島根大学の講座（講義3回）は、参加市町との連携講座として必修とした。

そのため、受講者は事前にカレッジ受講のオリエンテーションを受け、学習目標と受講希望する講座・講義を決め、個人の「学びのプラン」を作成し受信会場の担当者へ提出している。また、講座終了時には「学びのふりかえり」を同様に事務局に提出している。

参加市町は、受講者30名を独自に募集し、期間中、受信受講会場を提供し受講者の

学習活動の支援を行うとともに、本協議会が実施するオープンカレッジに係る調査に協力していただいている。しかし、受講者は、募集期間が2～3週間と短期だったこともあり各市町の平均で17.4人、全体で122人の受講者数となった。

受講者：松江市（18人）、江津市（14人）、頓原町（25人）、石見町（24人）  
匹見町（24人）、西郷町（10人）、西伯町（7人） 計122人

受信会場は、松江市が2カ所、石見町が5カ所、他の市町はすべて1ヶ所であった。都市部の松江市は、長期間受講会場の確保が難しく、5つの公民館が協力して日替わりで常に2ヶ所提供できるようにした。その結果、7市町の12受信会場となった。

なお、「島根市町村コミュニティ・カレッジ」の概要と学習メニュー方式と地域連携方式は、昨年度の報告書で詳細に解説しているので参考にさせていただきたい。

## 2. モデル事業の実施結果

### (1) 「島根市町村コミュニティ・カレッジ」の受講状況

コミュニティ・カレッジは、28大学30講座72講義から構成されているが、今回の受講者122人の「学びのプラン」に従って運用されており、最終的に72講義を選択受講した人数は、延べ1,222人で、1講義あたり平均17.0人が受講している。しかし、講義内容によって受講人数のばらつきが大きく、今後、地域性や学習者の特性も加味した分析が必要と考えられる。（表 - 1 参照）

コミュニティ・カレッジ30講座の内、受講者数が多いものは、教育関係、健康福祉関係、地域文化関係、情報関係等の内容の講座であり、学習機会の少ない山陰の中山間地や離島の町村の住民の選択結果ではあるが、現代社会の課題に対する関心の高さを反映していることが伺える。（表 - 2 参照）

また、一人あたりの選択講義数は、当初10講義以上選択することが目標であったが、結果として一人あたり10.0講義選択しており、5週間にわたる長期事業で、天候や夜間の講座が含まれているにも関わらず当初の目標数に近い受講状態は、受講者の学習意欲の高さを反映していると考えられる。今後、メニュー選択の在り方や講座の構成、季節、期間などを検討することでより一層の活用が期待できる。（表 - 2 参照）

### (2) 本モデル事業に関する受講者アンケートの結果

全講座終了後の閉校式にて、参加市町の受信会場ごと受講者に対して本モデル事業の受講について「受講者アンケート」を実施した。回収率76.2%（93人）で次のような事業に対する意見を得た。（添付資料：アンケート用紙及び集計結果 参照）

表 - 1 受講者の講座受講状況

放送講義（網掛け）・ビデオ講義（空白）

	午前 10:00～12:00	午後 14:00～16:00	午後 16:00～18:00	夜 19:00～21:00
12月10日(月)				
12月11日(火)	中央学院大学 18	十文字学園女子大学 6	東京都立保健科学大学 28	筑波大学 22
12月12日(水)				
12月13日(木)	武蔵野女子大学 11	京都工芸繊維大学 10	専修大学 26	長崎大学 18
12月14日(金)	弘前大学 16	愛知教育大学 7	淑徳短期大学 23	仙台大学 21
12月15日(土)	弘前大学 13	弘前大学 10	愛知教育大学 6	山梨県立女子短期大 10
12月16日(日)				
12月17日(月)				
12月18日(火)	東京都立科学技術大学 6	十文字学園女子大学 11	東京都立保健科学大学 25	筑波大学 17
12月19日(水)				
12月20日(木)	武蔵野女子大学 17	琉球大学 16	専修大学 17	長崎大学 14
12月21日(金)	早稲田大学 23	広島大学 10	淑徳短期大学 22	仙台大学 11
12月22日(土)				
12月23日(日)				
1月7日(月)				
1月8日(火)	新潟大学 7	十文字学園女子大学 14	中部大学 6	筑波大学 20
1月9日(水)				
1月10日(木)	武蔵野女子大学 14	琉球大学 12	専修大学 16	島根大学 105
1月11日(金)	早稲田大学 18	島根大学（再放送） 16	淑徳短期大学 6	仙台大学 7
1月12日(土)				
1月13日(日)				
1月14日(月)				
1月15日(火)	新潟大学 8	十文字学園女子大学 11	岐阜大学 - 20	筑波大学 10
1月16日(水)				
1月17日(木)	武蔵野女子大学 9	琉球大学 10	専修大学 13	島根大学 108
1月18日(金)	岐阜大学 - 12	島根大学（再放送） 11	淑徳短期大学 9	仙台大学 9
1月19日(土)	淑徳大学 13	岐阜大学 - 21	八戸大学 6	長崎大学 12
1月20日(日)				
1月21日(月)				
1月22日(火)	新潟大学 5	流通経済大学 6	岐阜大学 - 21	武蔵大学 2
1月23日(水)	岡山大学 19	大阪府立大学 7	中部大学 16	（特別受講者55名）
1月24日(木)	新潟大学 4	琉球大学 9	淑徳大学 - 3	長崎大学 7
1月25日(金)	岡山大学 19	京都工芸繊維大学 20	淑徳大学 - 5	常磐大学 7
1月26日(土)				
1月27日(日)		島根大学 115		延講座受講者数1,277人

表 - 2 コミュニティ・カレッジ構成大学一覧（大学名 / 講座名 / 講義数 / 受講者総数 / 平均講義受講者数）

国立大学・短期大学（15大学16講座）

	講義数	受講者総数	平均講義受講者数
東京都立保健科学大学	2	53	26.5
筑波大学	4	69	17.3
京都工芸繊維大学			
「肩こり・腰痛予防の運動」	2	30	15.0
「家庭と地域の教育力」	4	51	12.8
「シヨウジョウバエは飛びつづける - 遺伝とゲノム研究の役割 -」	3	39	13.0
長崎大学			
「まちづくりと生涯学習」	2	13	6.5
弘前大学			
「世界遺産白神大地の魅力」	2	41	20.5
愛知教育大学			
「使える英語を身につけよう」	2	33	16.5
岐阜大学			
「思春期の子どもの問題行動の悩みをかかえる親のために」	1	10	10.0
岐阜大学			
「総合的学習の現状と課題」	1	6	6.0
山梨県立女子短期大学			
「ジェンダー・フリーの子育て・保育を考える」	4	45	11.3
東京都立科学技術大学			
「振動と音の制御」	4	24	6.0
琉球大学			
「沖縄の自然からの警告」	2	38	19.0
新潟大学			
「ピジューアル腎臓病 [慢性腎不全]」	1	7	7.0
岡山大学			
「吉備の古代文化」	1	10	10.0
大阪府立大学			
「宇宙利用工学」	5	355	71.0
広島大学			
「放射線の生物影響」			
島根大学			
「石見銀山と文化的遺産」（必修講座）			

私立大学・短期大学（13大学14講座）

中央学院大学	1	18	18.0
「民法入門」			
十文字学園女子大学	4	42	10.5
「女性と情報」			
武蔵女子大学	4	51	12.8
「21世紀のライフデザイン」			
専修大学	4	72	18.0
「インターネットを活用する」			
淑徳短期大学	4	60	15.0
「健康と福祉」			
仙台大学	4	48	12.0
「スポーツと健康福祉」			
早稲田大学	2	41	20.5
「カウンセリング講座」			
中部大学	2	16	8.0
「異文化コミュニケーション」（特別受講者55名あり）			
淑徳大学	1	13	13.0
「江戸の光と影 - 江戸時代に学ぶ」			
淑徳大学	2	8	4.0
「江戸の光と影 - 近松、南北、そして黙阿弥 -」			
八戸大学	1	6	6.0
「21世紀の生活と暮らし - 地方からの提言 -」			
流通経済大学	1	6	6.0
「ネットワーク社会における商業と物流」			
武蔵大学	1	2	2.0
「衛星通信利用による武蔵大学公開講座：文化人類学とは」			
常盤大学	1	7	7.0
「ポラントピア・マネジメント入門」			
計	72	1,277	(特別受講者55名含む)

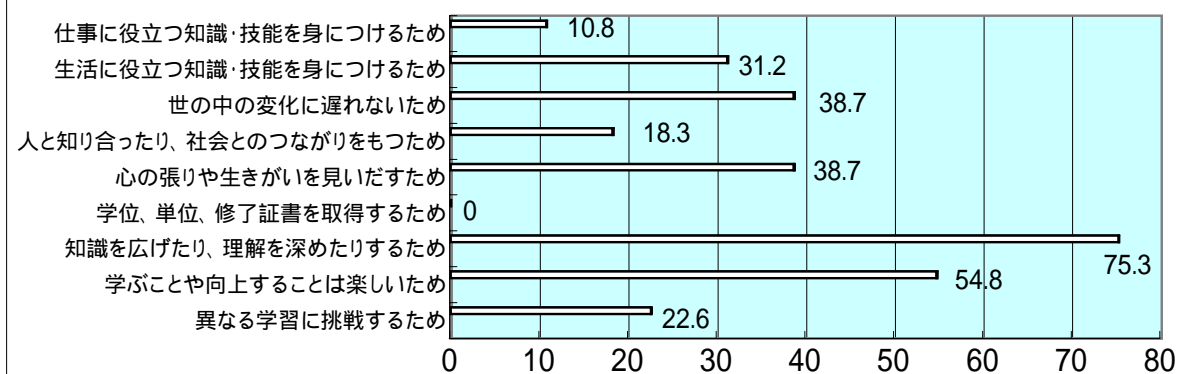
### 講座の受講目的

集計の結果、学習者の主な学習目的は、学習活動を仕事や資格に結びつけたり、学習活動による他人や社会との結びつきに期待したりするよりも、学習活動による「知識を広げたり、理解を深めたりするため」「学ぶことや向上することが楽しいため」等のように自らの知識や見識を高めることに主眼があることが明らかになった。(表 - 3、図 - 1 参照) しかし、今後、「オープンカレッジ」の講座が、具体的な単位修得や資格修得に結びつくようになると、当然、受講者層と学習目的が変化することは予想される。

表 - 3 講座の受講目的

	項 目	選択数	%
1	仕事に役立つ知識・技能を身につけるため	10	10.8
2	生活に役立つ知識・技能を身につけるため	29	31.2
3	世の中の変化に遅れないため	36	38.7
4	人と知り合ったり、社会とのつながりをもつため	17	18.3
5	心の張りや生きがいを見いだすため	36	38.7
6	学位、単位、修了証書を取得するため	0	0
7	知識を広げたり、理解を深めたりするため	70	75.3
8	学ぶことや向上することは楽しいため	51	54.8
9	異なる学習に挑戦するため	21	22.6

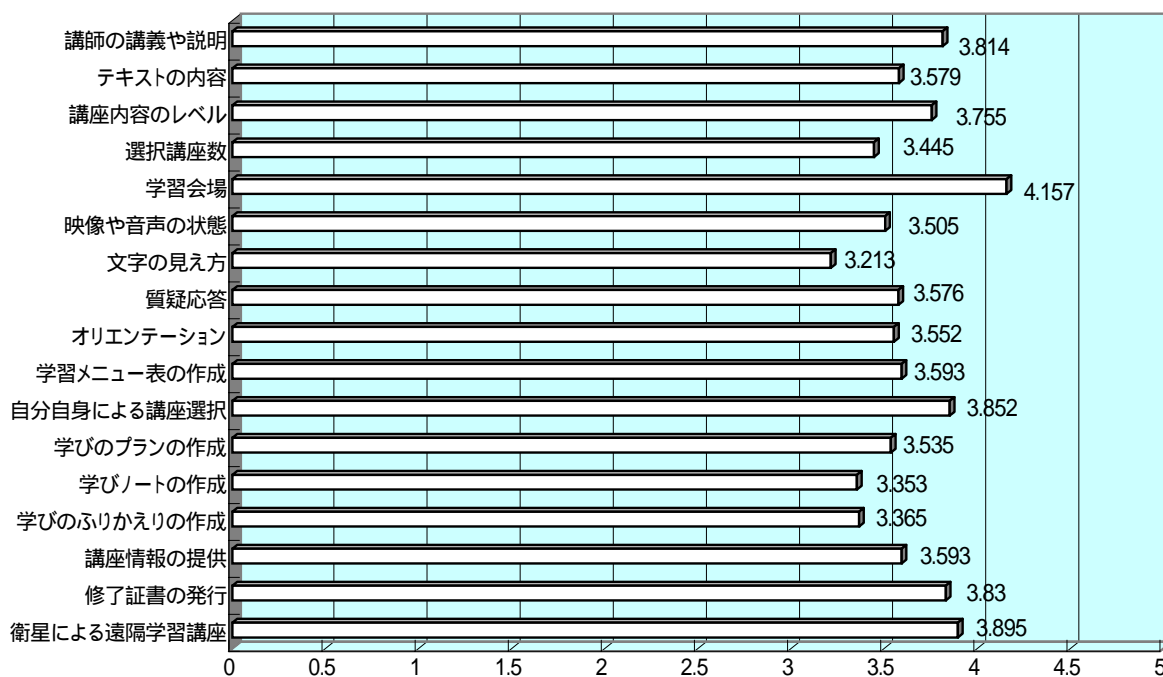
図 - 1 受講者の学習目的 (複数回答)



### 講座の満足度

分析にあたっては、選択肢の「とても満足」から「とても不満」までの5項目にそれぞれに5～1の得点を与え、その平均点を算出した。すべての項目で中央値の3.00を上回っており、受講者は概ね満足していることが伺える。とりわけ、「学習会場」「衛星による講座」「自分自身による講座選択」「修了証の発行」「講師の講義や説明」等が3.80以上の高い値となっている

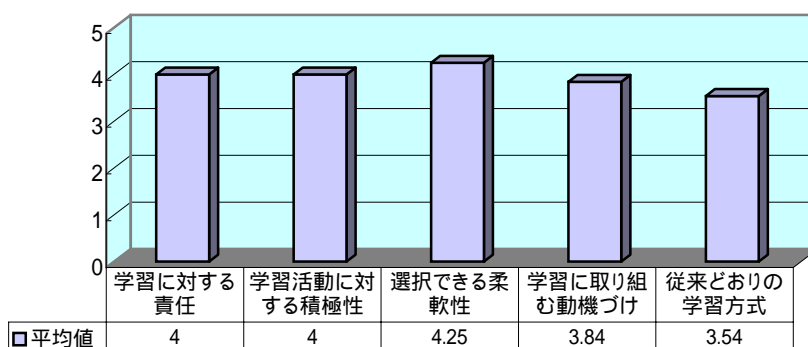
図 - 2 講座の満足度



「学習メニュー方式」への賛否

分析にあたっては、同様に各5項目にそれぞれに5～1の得点を与え、その平均点を算出した。ただし、項目5だけは否定的な質問のため、逆順に点数を与えている。結果は、図-2から明らかなように、すべての項目で3.00以上の値であり、昨年の調査と同様に受講者が肯定的な意見をもっていることが伺える。

図 - 3 学習メニュー方式への感想



学習成果の評価の希望

回答者の72.0%にあたる67人が「評価されることを希望しない」と答えており、学習者の「学習目的」の調査結果と関連していることが伺える。



### 3. 新しい課題への取り組みとその成果

#### (1) コミュニティ・カレッジを構成する大学公開講座の選択方法

今年度からの新たな試みとして、受信会場の担当者に講座選択に参画してもらうことで「より地域社会に受け入れやすい講座構成」ができないか検討した。そのため、モデル事業に参加している各市町の担当者に、今年度の放送予定大学公開講座の中から、地域住民の関心の高いテーマや地域課題に関わる題材を扱った講座を5大学推薦してもらい、それらの中から大部分の大学を選択した。選択した大学が重複して足りない大学数は、講座の領域のバランスを考えて事務局で最終的に選択した。

その結果、大部分の講座で多くの方が受講しているが、事務局が選択した講座で、一般教養的内容の語学、科学、文学、経済学、文化人類学等の講座は受講者が思ったより少なく、今後、講座を組み立てる場合に受講者や地域社会の特性などを考慮した工夫が必要と考えられる。

#### (2) 受信会場の役割

受信会場では、受講者に選択されている講義があれば、1日4講義を「オープンカレッジ」の放送時間に合わせ提供した。なお、リアルタイムで放送される講義はそのまま利用し、すでに放送終了している講義は録画ビデオで学習を行った。

今後、放送回数、時間が拡大した場合、今年度の松江市会場のようにいくつかの公民館が連携して会場確保するなどの対応が必要とされる。また、将来、受信施設が「オープンカレッジ」受講専用の部屋の確保が難しくなるなどが予想され、今後、同種、異種間の施設での連携や協力の在り方を検討する必要性が生じてきた。

#### (3) 地元の高等教育機関の役割

今回のモデル事業では、協議会の核である地元島根大学は、コミュニティ・カレッジ全体のコーディネートを行うとともに、提供する講義に関して、その録画テープとテキストを準備し、各市町に必要数を送付したり、担当者からの講義に関する質問に答えたり、各市町のモデル事業への取り組みを支援する役割を果たした。

今後、地域の高等教育機関は、県・市町村との連携を深め、講座の提供や講師派遣などの直接的な支援だけでなく、受信施設での学習活動がスムーズに行くよう間接的な支援の在り方を検討する必要がある。

#### (4) 講座受講時における質疑応答の簡易化

これまで質疑応答については、本協議会では、衛星の双方向通信システムを利用したり、テレビ電話を活用したり、FAX、顔写真付きの携帯電話などさまざまな方法を試みてきた。それぞれ一長一短あり、まるで面前で対峙しているような衛星双方向通信の動画から、静止画と音声だけ、紙に書かれた文字だけなど、さまざまなテクノロジーが使用が可能となってきた。

重要なポイントは、受講者にとっては講義における疑問解決の手段として、また講義内容の理解をより深める手段として、講師や大学への質問は欠くことのできないものである。その方法は、市町村の一般市民が受講者である以上、より簡易で、経費の少ないものが理想であり、回答する方も場所や時間に拘束されないものが望まれている。

そこで、今回は、「講師の所在場所」が質疑応答に対応できないか実験してみることとした。そのため、今日、急速に普及しつつあるインターネット・テレビ会議システム（チャット付き）の活用を試みた。数回のテストを行い、一応、対応できることを確認したが、本番では、回線の混雑のため映像・音声の送信を十分できなかった。一応、付属のチャットを活用して対応することで質疑応答を行った。今後の課題として、ブロードバンドの普及とともに、同時に簡易で安価なアプリケーションの普及が必要である。（図 - 1 参照）

#### （５）講座テキストの印刷の現地化

モデル事業では、各講師のテキスト原稿をPDFファイルに変換し、本部（東京）から遠隔地の受信施設（今回は島根大学）にメールに添付して送る。その後、パソコンから専用印刷機にPDFファイルを送り、印刷、帳合を自動で行い、人手で綴じることになる。以上の手順を踏むことで、必要な部数を時間をかけずに印刷できることが判明し、市町の受信会場からの要求にこたえられた。また、テキストの文字、挿絵、表、図は十分講座で利用できる状態であった。

#### （６）モデル事業参加経験による「オープンカレッジ」の新たな活用方法への展開

「島根市町村コミュニティ・カレッジ」事業はモデル事業であり、この結果を「オープンカレッジの講座の活用」にどのように生かしていくのか検討することが必要である。今回、受信会場の担当者らを中心にこれまでの「オープンカレッジ」の経験を生かして、新たな「オープンカレッジ」講座の活用方法を模索し始めた。以下、受信会場のいくつかの動きを紹介する。

匹見町では、放送講座や講座録画ビデオを公民館利用の各種団体に学習会や研修会などでの利用を勧めており、今回のモデル事業の中でも1月23日中部大学「笑顔の研究」（1時間）が、地域婦人会の研修で利用されている。

西伯町では、中央公民館主催の年間通して行われている生涯学習カレッジの中の教養講座の一つとして「オープンカレッジ」の講座受講を薦めている。

今回、初参加の江津市では、来年度、市内の2つの公民館でビデオ録画した「オープンカレッジ」の講座を活用して、地域コミュニティ・カレッジを行う計画を立てている。

なお、このような動きに対して、島根大学では、これまでの講義録画ビデオをはじめ、講座テキストのPDFファイルやテキストのストックもあり、積極的に支援していくとともに、今後は協議会の市町村だけでなく、他の自治体、団体にも「オープンカレッジ」の様々な活用方法を広報し利用を推薦していく計画である。

#### （７）講義に対する受講料等、受益者負担の在り方に対する受講者意識の調査結果

今日の市民の学習活動における受益者負担の動向を視座に入れながら、モデル事業の受

講者に「オープンカレッジ」の受講料についてアンケート調査を行った。その結果、回答者の約60%が「払ってもよい」と回答しており、今後、「オープンカレッジ」の運用によっては受講料徴収の可能性があることが示された。

次に「払ってもよい」と回答した受講者に「その支払いシステム」について尋ねたところ、「受講する講義ごとに一定額」を支払う回答が57.4%、「カレッジへの入学料や受講料として一定額」を一括支払う回答が35.2%となっており、受講する講義数が一人一人異なることから現実的な、また合理的な回答が示されている。さらに「1回あたりの講義の受講料」（テキスト代を含める）については、500円以上1,000円未満ならば23.2%、300円以上500円未満ならば、1,000円未満23.2%と合わせて53.6%、300円未満ならば合計89.3%の支持がえられることから、1講義300円程度が今回の受講者の多くから支持されていることが明らかになった。

加えて「入学料や受講料として一括支払う額」の質問に対する回答では、3,000円以上5,000円未満ならば33.9%、3,000円未満ならば合わせて83.9%の支持があり、「オープンカレッジ」において、仮に入学料（3,000円）と10の講義分（20時間、300円×10＝3,000円）の計6,000円の受講料を払うならば、今日の一般的な国立大学公開講座の受講料（20時間、7,800円）と比較しても遜色の無いものと考えられる。今回の調査は、まだ少人数ではあるが実際の「オープンカレッジ」受講経験者の意見として、今後、受益者負担のあり方について検討する際の参考データになれば幸いである。（「受講者アンケート結果」を参照）

#### 4. 今後の課題

今年度実施したモデル事業は、昨年度に引き続いて学習メニュー方式を中心に行ったが、受講者アンケートの結果や担当者の意見を整理すると、今後、「具体的なオープンカレッジの活用方法、その事業の運用の在り方、受講者の学習活動の支援の方策」など、現場サイドに立った具体的な課題の検討が求められていることがわかった。

これまで、第一段階として、「どうやって大学の講座を地域社会や住民の身近に届けることができるのか」その方法を検討してきた。今後は「学習者の立場に立った講座の在り方、事業運用の方法」などを検討していく必要がある。さらに「学習評価をどうするのか」「受益者負担をどうするのか」「受講料徴収と受信・受講施設との関係」「大学との連携・協力のあり方」「受信施設の担当者の研修や学習支援のあり方」をどうするのか等、さまざまな課題が生じてきている。加えて、「オープンカレッジ」の利用促進のための根幹にかかることであるが、現在、受信装置が設置されている施設の利用を推進するとともに、受信施設の絶対数を増加する必要がある。つまり、地域住民がもっと「オープンカレッジ」講座に触れる機会と場所を確保することが求められる。

最後に、「オープンカレッジ」に係わる様々な課題が整理してきたが、今日の生涯学習社会の構築を目指すなかで、「オープンカレッジ」の占める位置と役割を明確にし、そのことを指針に課題解決を図る必要があると考えられる。

（島根大学生涯学習教育センター教授 仲野 寛）

## 受講者アンケートと調査結果

( )内の数値の単位は、パーセント  
N は回答数、MT は複数回答率

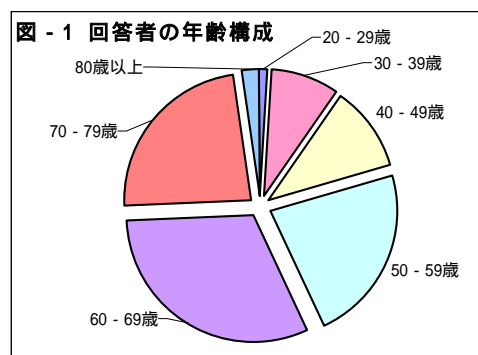
問1 はじめに、あなた自身のことについておたずねします。

あなたの性別はどちらですか。あてはまる番号に をつけてください。N = 93

38 (40.9) ア 女 55 (59.1) イ 男

あなたの年齢は、満でいくつですか。あてはまる番号に をつけてください。N = 93

1 ( 1.1) ア 20～29歳  
8 ( 8.6) イ 30～39歳  
10 (10.8) ウ 40～49歳  
21 (22.6) エ 50～59歳  
29 (31.2) オ 60～69歳  
22 (23.7) カ 70～79歳  
2 ( 2.2) キ 80歳以上



あなたの受講会場はどこですか。あてはまる番号に をつけてください。N = 93

3 ( 3.2) ア 西郷町中央公民館  
16 (17.2) イ 頓原町頓原公民館  
18 (19.4) ウ 石見町中央公民館  
24 (25.8) エ 匹見町匹見上公民館  
11 (11.8) オ 江津市教育委員会  
7 ( 7.5) カ 西伯町中央公民館  
14 (15.1) キ 松江市教育委員会 (橋北・橋南地区)

あなたのご職業は何ですか。あてはまる番号に をつけてください。

3 ( 3.2) ア 会社員 12 (12.9) イ 公務員  
5 ( 5.4) ウ 自営業 23 (24.7) エ 農林業・漁業従事者  
4 ( 4.3) オ パート・アルバイト 19 (20.4) カ 主婦専業  
19 (20.4) キ 無職 7 ( 7.5) ク その他 ( )

あなたは、これまでに本講座のような衛星通信やテレビ等を利用した遠隔講座に参加した経験がありますか。あてはまる番号に をつけてください。N = 92

47 (50.5) ア 有 45 (48.4) イ 無

あなたは、これまでに本講座以外の県や市町村の生涯学習・社会教育関係の講座に参加した経験がありますか。あてはまる番号に をつけてください。N = 92

63 (67.7) ア 有 29 (31.2) イ 無

問2 あなたが本講座で学習を行うのは、どんな目的からですか。

主な目的を3つまで選んで をつけてください。

- 10 (10.8) ア 仕事に役立つ知識・技能を身につけるため
- 29 (61.2) イ 生活に役立つ知識・技能を身につけるため
- 36 (38.7) ウ 時代や世の中の変化に遅れないようにするため
- 17 (18.3) エ 人と知り合ったり、社会とつながりをもつため
- 36 (38.7) オ 心の張りや生きがいを見いだすため
- 0 (0.0) カ 学位、単位、修了証書を取得するため
- 70 (75.3) キ 知識を広げたり、理解を深めたりするため
- 51 (54.8) ク 学ぶことや向上することは楽しいため
- 21 (22.6) ケ これまで経験したものと異なる学習に挑戦するため

問3 今回の講座は、あなたにとってどの程度満足のものでしたか。各項目ごとにもっとも適切な番号に をしてください。

アンケート集計に分析にあたっては、  
 択肢の「とても満足」「まあ満足」「どちらともいえない」「やや不満」「とても不満」  
 のそれぞれに5、4、3、2、1の得点を与え、その平均点を算出する。

とても満足      まあ満足      どちらともいえない      やや不満      とても不満

(1) 講師の講義や説明

1      2      3      4      5

- 3.814 (N = 86) (1) 講師の講義や説明
- 3.579 (N = 88) (2) 講座テキストの内容
- 3.755 (N = 86) (3) 講座内容のレベル
- 3.445 (N = 83) (4) 選択できた講座数
- 4.157 (N = 89) (5) 受講会場(学習した場所)
- 3.505 (N = 89) (6) テレビ画面の映像や音声の状態
- 3.213 (N = 89) (7) テレビ画面の文字や展示物の見え方
- 3.576 (N = 59) (8) 講座での質疑応答(島根大学の3回目の講座のみ)
- 3.552 (N = 76) (9) 受講のオリエンテーション(説明会)
- 3.593 (N = 86) (10) 講座を選ぶ学習メニュー表

- 3.852 (N = 88) (11) 自分自身による講座選択
- 3.535 (N = 84) (12) 「学びのプラン」の作成
- 3.353 (N = 65) (13) 講座ごとの「学びノート」の作成
- 3.365 (N = 63) (14) 「学びのふりかえり」の作成
- 3.593 (N = 64) (15) 講座情報の提供
- 3.830 (N = 59) (16) 修了証書の発行
- 3.895 (N = 67) (17) 衛星通信を使った遠隔学習講座

問4 あなたは、自分の学習したい講座を選択する「学習メニュー方式」に対して、どのような感想を持ちましたか。各項目ごとにもっとも適切な番号に をしてください。

<p>アンケート集計に分析にあたっては、選択肢の「つよくそう思う」「まあそう思」「どちらともいえない」「あまりそうは思わない」「全くそうは思わない」のそれぞれに5、4、3、2、1の得点を与え、その平均点を算出する。ただし、(5)の質問項目は逆の順に点数化して算出している。</p>	<p>つよく そう 思う</p> <p>まあ そう 思う</p> <p>どちら とも いえない</p> <p>あまり そう は思わ ない</p> <p>全く そう は思わ ない</p>
<p>(1) 従来の講座よりも、学習に対して自分が責任を持つものであった</p>	<p>1    2    3    4    5</p>

- 4.000 (N = 90) (1) 従来の講座よりも、学習に対して自分自身が責任を持つものであった
- 4.000 (N = 91) (2) 自分の学習活動に対する積極性と関心が高まった
- 4.250 (N = 91) (3) 自分が学習したいことを選択できる柔軟性があった
- 3.840 (N = 91) (4) 次の自分の学習活動に取り組む動機づけになった
- 3.540 (N = 91) (5) 内容が決められている従来どおりの学習方式の方がよかった

問5 あなたは、本講座の学習の成果に対して、何らかの評価が行われることを希望しますか。あてはまる番号に をつけてください。N = 93

- 10 (10.8) ア 評価を希望する
- 67 (72.0) イ 評価されることを希望しない
- 16 (17.2) ウ わからない

問6 今後、今回のような「衛星通信を利用した大学公開講座」において受講料が必要になった場合、あなたはどのようにお考えですか。各項目ごとにもっとも適切な番号に をしてください。

6 - 1 . 受講料の負担について N = 91

55 ( 60.4 ) ア 受講料を払ってもよい

20 ( 22.0 ) イ 受講料を払いたくない

16 ( 17.6 ) ウ わからない

問7へお進みください

以下の設問の6 - 2と6 - 3は、問6 - 1で「受講料を払ってもよい」と答えられた方におたずねします。

6 - 2 . 受講料の支払システムについて N = 54

31 ( 57.4 ) ア 受講する講義ごとに一定額 ( 受講する講義数に応じて )

4 ( 7.4 ) イ 受講する大学ごとに一定額 ( 受講する大学数に応じて )

19 ( 35.2 ) ウ カレッジへの入学料又は受講料として一定額 ( 一括して )

6 - 3 . 受講料の金額について

一回あたりの講義の受講料は、テキスト代金を含めて、いくらが妥当と思われますか。N = 56

20 ( 35.7 ) ア 300円未満

17 ( 30.4 ) イ 300円 ~ 499円

13 ( 23.2 ) ウ 500円 ~ 999円

6 ( 10.7 ) エ 1,000円以上

年間を通して講座が実施された場合、一括して支払うカレッジの入学料又は受講料は、いくら  
が妥当と思われますか ( 10講義の受講を目安として下さい )。N = 56

28 ( 50.0 ) ア 3,000円未満

19 ( 33.9 ) イ 3,000円 ~ 4,999円

9 ( 16.1 ) ウ 5,000円 ~ 9,999円

0 ( 0.0 ) エ 10,000円以上

問7 今後、今回のような「衛星通信を利用した大学公開講座」が行われるとしたら、また受講したい  
と思いますか。あてはまる番号に をつけてください。N = 87

70 ( 80.5 ) ア 受講したい

1 ( 1.1 ) イ 受講したいと思わない

16 ( 18.4 ) ウ わからない

最後に、この講座を受講されてのご感想、お気づきの点などをご自由にお書きください。

ご協力どうもありがとうございました。